

CLUJ - NAPOCA RUMANIA



第36回

ヨーロッパ・キリスト者の集い

証と感想



へりくだり砕かれた心で

シスター・ソハラ

マリア福音姉妹会、ダルムシュタット

今回のルーマニアでの集いに参加できたことを心から感謝しています。クルージュの町のあちこちで、また人々の顔に刻まれた、この国の過去の痛みを、たとえわずかでも自分の目で実際に見ることができたのは、以前の集いにはなかった、私にとって非常に貴重な体験でした。



さらに長い年月、実際に迫害と苦難を通してこられた兄弟たちの口から、生きた証しを聞かせていただく時が与えられたことにも本当に感謝しています。

主にある兄弟姉妹が、今日も世界のあちこちで御名のゆえに迫害され、苦しみのただ中にあることを覚え、彼らのために祈ると同時に、やがて私たちにもやって来る迫害の時に、自分自身ももっと備えられる必要があることを深く知らされました。

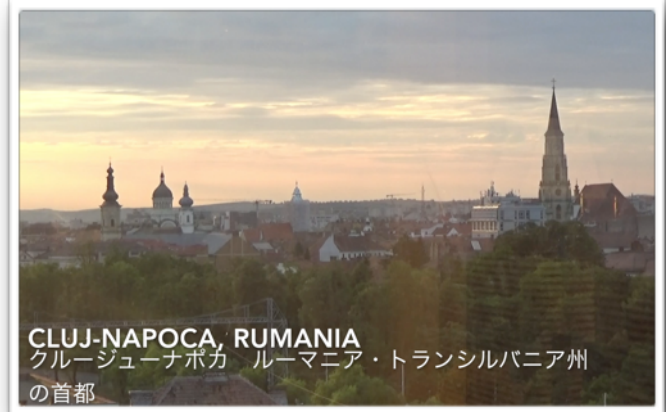
また今置かれている状況を覚え、「集い」について神様がどのように考えておられるか、私たち一人一人から何を望ん

でおられるのか、この集いを始めてくださったお方のお心とご計画を、祈りのうちにそれぞれが真剣に尋ね求める必要を思います。



神様は何か新しいことを始めたいと願っておられるのかもしれませんが、神様が愛しておられる「集い」をきよめ、深め、そして新しいビジョンを与えたい、と願っておられるのかもしれませんが。

それゆえ、へりくだり砕かれた心で、この集いを通して、神様にもっと愛と栄光が帰されるよう、共に心を合わせて、これからも真剣に祈らせていただこうではありませんか。



この証集には、森住ゆき姉のちぎり絵がご本人の承諾を得てカットとして用いられています。

心が震え立つ思い

ダーバー千晴

JB Charleston Church

去る7月25日からの“集い“では、フランクフルトのグループに参加させていただき本当に有難うございました。感謝です。

委員会の方には会費の納入の時からお世話になりました。天候不順で飛行機が出ず1日遅れました際も、ご連絡などいつもそれは直ぐして戴き感謝して居ります。翌日の飛行機で空港に着くやバスがお迎えくださり、なんと至れり尽くせりのお手配でした。有難う御座います。



フランクフルトには沢山の会員がいられるのかなと思っていましたが、殆どの会員の方が受け付け、翻訳、ホテルとの連絡、パスの手配と色々のお仕事をなさり参加者のご主人まで入ってのフル活躍であることを知りました。朝早くから夜遅くまで、ある時は繰出である時は交代と本当にご苦労様でございました。感謝いたして居ります。どうか主が豊かな恵みを与えてくださいますよう。

初めて参加いたしました。私は沢山の学びと励ましを受けて帰ってまいりました。なんと言っても一番嬉しかった事は場所がトランシルバニア北部のCluj-Napoca

でありました。一般の旅行であれば首都のある南部ルーマニアで終わった事でしょう。此処にくることは先ず無かったと思ってとても慶んで居ります。

戦争で余り空爆被害がなかったようで歴史の多く残る町を見学し、正教の教会、岩塩坑、オペラハウス、芸術作品、



迫害記念館、博物館、刑務所なども見ることが出来、更に共産主義からの圧迫の長い日々の歴史の説明、特に苦しみ、拷問を受けた人々が最後まで信仰を捨てなかったこと。圧迫に対抗した国民と世界の人の援助で独立し、現在は自由に宗教が選べて正教からプロテスタントの教会へと活発になっている様伺いました。

独立してから、特に近年は色々開発が見られ豊かになってきた国になり、しかし忘れてはいけないソ連の占領時代があり、実際にクリスチャンの迫害があった国であり、当時の生活の一部を学び歴史の跡を垣間見て本当に胸を打たれました。プログラムの中でも其のお証があり、川井先生の熱い信仰のうめきのような通訳、証をお聞きして本当に信仰の自由の国で生ぬるい信仰で生きる自分を恥ずかしいと感じました。主がお招きくださる日迄、年相応に出来ることは沢山あることを考え、心が震え立つ思いでした。

この集まりに出席できた事を主と、役員の皆様、ルーマニア教会の皆様へ心よりお礼申し上げます。皆様の上に主の恵みが更に豊かにありますよう、お祈り申し上げます。

みな主にある兄弟姉妹

佐々木千恵子

シュトゥットガルト日本語教会



主を賛美いたします！
ハレルヤ！

ルーマニアでのキリスト

者の集い実行委員方々はじめ、ご奉仕にあられた方々、その多大な主の尊いご奉仕に心より感謝いたします。準備また後処理と、どんなに大変かと思えます。おかげさまで、大変祝された時間となりました。ドイツ語の通訳も用意くださり、主人がドイツ人でするので大変ありがたく、たくさんの方々の貴重なメッセージを聴くことができ、賛美も素敵で恵まれました！

みな主にある兄弟姉妹、久しぶりにお会いす



Castle Banfy (クルージュ郊外にて)

る方々、お顔が見られうれしかったです。長年行ってみたいと思っていた*さくら喫茶店*にも、足を運ぶことができ感謝でした。

クルージュの町はラテン系の暖かいイメージでしたが、美鈴さんのお話なども含め共産圏だった時の大変さも、実際その場に行って少し理解することができました。

オプションツアーも参加させていただき、私たちをお招きくださった教会、日本語の歌も用意くださり迫力でした！また世界遺産などみることもでき、感謝いたします。

川井先生が脂汗ふきふき、けなげに、皆さんにとって良い旅になってほしいと、バスで一生懸命一人一人に語りかけてくださり、頭が下がりました。お疲れでないでしょうか。

主の祝福に満ちたルーマニアの時間を過ごさせていただき心より感謝します。

情熱の籠った語りと作品

橋場ひとみ

パリプロテスタント日本語キリスト教会

今回初めての参加になります。ヨーロッパ、ブリュッセルに住んで1年余りですが東欧の旧共産国であるルーマニアその一都市であるクルージュナポカは全くの未知の場所でした。又キリスト者の集まりに教会員でない私が参加しても良いのかと不安な思いを感じながらの参加でした。でも結果は感謝と希望で終わりました。まず、この大きなイベントを36回もの長きに亘って毎年行われてる事に感動し、支えて来られた皆様に感謝致します。

色々な人々との出会いにも感謝です。日本語の上手な韓国人も意外にも参加されていました。韓国ではクリスチャンが多くて收拾がつかず、却って少ない日本なので可能なのだと知りました。又、普段では直接お目にかかれなような方々も神様の前では皆平等、親しくお話しして下さいました。嬉しい事です。リピーターの方々は一年に一度ここで会うのが楽しみと同窓会の感じで、私もその内そのお仲間になりたいと思いました。

三日間に渡る内容もみっちり盛り沢山、朝食前から夜の9時まで各先生方の講演、お祈り、小グループでの分かち合い、分科会や市内観光も用意して下さいて旧共産国の辛い歴史を肌で感じる事ができました。でも人々は穏やかで素朴な印象でした。

このぎっしり詰まった集い、最も印象に残っているものの一つは、地元ルーマニアの彫刻家リビウモカン氏の情熱の籠った語りとその作品です。下は錆びている梯子、一段追うごとに鳥が解放され、自由に天に向かって羽搏いて、ヤコブの梯子を思い起こさせます。

今回のテーマにも合った希望に満ちた魅力的な作品です。自由のなかった共産時代を終えてから、30年経ったルーマニア、抑圧から解放され、神を知り、喜び賛美する地元のプロテスタント達。その美しい歌声を目の当たりにして、又感動、本当に参加できて良かったです。ありがとうございました。



共に祈り合う事の大切さ

村上公子

大阪のぞみ教会

私は、今回この集いにスイス日本語福音キリスト教会の会員である今村の家族の一員として日本から参加させて頂きました。

ルーマニアは東欧の国、チャウチェスク政権下の時代やロシア共産主義の言論や思想が制限されていた時代に多くの苦しみを経験された国、という位の知識しか持っていませんでした。そうだ！川井先生の居られる国、EU共同体に連なり自由な国となった、今のルーマニアを見たい！川井先生にお会いしたい！と思いました。



賛美チームの一員として

大会2日目の午後、近くで先生のお顔を拝見した瞬間！あまりにもお疲れのご様子で「先生大丈夫ですか！」としか言えませんでした。10数年前にギターを抱えて賛美やメッセージをお語りになっていた時の明るくお元氣な御姿と余りにも違っていたからです！革

命後、何も無いこの街に最初の日本人居留者として召されて、神様の福音を語り続けた年月とそのご苦勞。国全体の経済的な貧しさ、現在に至るまでの忍耐の重さは、神さま以外誰も知り得ない事だったでしょう。

本大会の為に準備して下さいた全ての方がたの上に神様の祝福が豊かに在りますように。大会後のお疲れを癒して下さいますように！とお祈りしています。

大会の後、2日間ルーマニアに滞在し、現地の人々と会話をしました。「ルーマニアは気に入ったかい？自由の国になって賃金は安い、満足しているよ！又来るかい？来てよね！」と手を出して握手する笑顔は日本人より明るく爽やかに映りました。

高速道路が少なく、街から街へと移る道沿いにある家々は兎小屋と言われた戦後の日本の家のようなでした。ツーリストの車が行き交う幹線道路では、10才くらいの少年が真昼に裸で一人で立ち、車に近づき「ボンボンください」とキャンディをねだる姿は、日本の終戦後に見かけた戦災孤児の姿と重なり胸が痛み、この国の復興迄、後10年～20年は掛かるのではないかと神様に祈らずにはいられませんでした。

ヨーロッパの教会も、日本の教会も同じ主の教会であり、共に祈り合う事の大切さを示されました。栄光の神様が全てを導いてくださった事を感謝します。

「見よ。なんとという幸せなんという楽しさだろう。兄弟たちが一つになってともに生きることとは。」詩篇 133篇1節



恥に満ちる自由、あるいは許しを乞う私

櫻井 零

オランダ南部日本語キリスト教会

あまり気分の優れないままに私はクルージュナポカの街にたどり着き、ホテルへのチェックインを済ませました。私の母国、日本は一体これからどうなって行ってしまうのか。と、近くに行なわれた国政選挙をとおして思わされていたからです。

私がまだ幼かった頃、記憶に残るはじめての海外のニュースは、男性がピッケルで壁を打つ、というものでした。たくさんの人々が集まって色々と声をあげ、その熱狂に強烈な印象を受けたのを覚えています。それが東西冷戦の終結を意味するものだと理解出来たのはもう少し後になります。当時のブラウン管から伝わった人々の歓喜の熱の激しさ。それを未だに覚えているのです。そのおよそ1ヵ月後、1989年のクリスマスにルーマニアでは市民革命が起き、独裁政権が倒されました。それから30年経った今、私はその地を訪れる機会に恵まれました。同時にそれは私にとって4回目となるヨーロッパ・キリスト者の集いへの参加となりました。

主催教会の牧師、川井先生はその革命の翌年の夏よりこの地に遣わされ、革命後の自由主義社会を獲得された人々と苦楽を共に歩んで来られました。

私は滞在した数日でこれまでに会ったことのない

文脈の歴史を、文化を、それらを背負ったこの地の空気のふ厚く深い質感を感じていました。今回の集いで与えられた時間のうちには、それが何なのか私にはわかりませんでした。例えば今回の主題「解放された者として生きる」という言葉がその空気を感じたとたんに目前から霞んで、集いをとおして私はそれを理解することが出来なかったのです。

どういう意味か。という、何も知らなかった何か深い意味を持つものがこの地にはあったのです。それは“技術的に”非常に“先進的な”インフラが整備された地域に住み、そういった暮らしが当たり前のように思っていた無知における高慢な私を私の目前に、そして御前に映しだしました。この地で御前に照らされた私は、ずいぶんと恥ずかしい思いをしました。

しかし、本来このような私を救い出し、とりなし、この地に向かわせてくださったのは主であられます。私を無自覚な高ぶりからゆり起こすようになしてくださったのは、あなたの哀れみで、私の頭上はるか高くにまします。

どうか無自覚のうちに自由を怠惰に呼吸し笑いに眠るものとせず、無知において恥入りしかしその故に、あなたを愛し讃美するものとなしてください。あなたのひかりで照らしてください。

わからないままに拙い思いを綴るものをお許してください。あなたのうちにあります、ちいさなものでありますから。



我が家の娘たちは集いっ子

安藤里佳子

ミュンヘン日本語キリスト教会

今回の集いでは5年ぶりに、子ども達にみことばを語る奉仕をさせて頂きました。CSも何回か見学させて頂きましたが、最初は縮こまっていた子ども達がかんたんと元気になって、最後にはしっかりと暗証聖句や賛美の発表ができたことには驚きました。

子ども・大人一緒にの主日礼拝でしたが、子ども達も一緒に静かに参加できたので、本当に多くの祈りがこのために積まれて来たのだなと思いました。我が家の娘達も集いで育てられた集いっ子ですので、CSの大切さは語り尽くせない思いです。ヨーロッパ各地の教会の子どもミニストリーがこれからも祝福されることを祈ります。

集いを主催して下さいましたルーマニア・フランクフルトの兄弟姉妹方に心から感謝しています。



解放されたものとは

富永重厚

パリ・プロテスタント日本語キリスト教会

今年の夏のヨーロッパ・キリスト者の集いはルーマニアのクルージュ・ナポカで東欧解放30周年を覚えて「解放された者として生きる」とのテーマで開催されました。ヨーロッパ各地の日本語教会の牧師・宣教師方が掲げられたテーマにつき、さまざまな聖書の箇所からメッセージが取りつがれました。

「恐れや思い煩いからの解放」「罪の奴隷からの解放」「相対的価値からの解放」そして「自由とされた者としてどう生きるか」等多くのことが語られました。語られたことに共通していたのは「解放された者」とはイエス・キリストが自分の罪のために十字架で死んで下さったということを知る信仰者であるということでした。



マルチン・マイヤー先生はヨハネ福音書の8章1～11節の良く知られた姦淫の女の箇所から罪の許しについて語られ、イエスが最後に「わたしもあなたを罪に定めません。行きなさい。」と言われたのは、単に姦淫の女を許したのではなく、「あなたの犯した姦淫の罪によりあなたは石打ちの刑を受けなさい。しかしわたしが代わって十字架で死んであげる。だからもう二度と罪を犯してはならないと言われたのです」と語られました。

イエスさまは100%罪の無い潔いお方ですので姦淫の罪を許されるはずはありません。その罪を許すためにはご自分の尊い命を犠牲にする以外にないのです。これがイエスさまの苦しみであり私たちに対する憐れみと愛です。

私は罪人として本来受けなければならない罰を十字架

によって許されているのだという事実、そしてそのことがどれ程私の人生に大きな喜びと平安を与えているのかを強く思わせられました。



今回の集いはいつもの集いと少し違う特色がありました。ルーマニアの信仰の歴史を辿り現在どうなっているのかを知る良い機会となりました。

米国在住の中井美鈴さんが招かれ共産党政権下の迫害下にあったルーマニアの教会についての実に生々しい証言を聞くことが出来ました。

中井美鈴さんは「地下運動の声」の著作者で長く牢獄生活を余儀なくされアメリカに亡命したルーマニア人牧師リチャード・ウォムブランド牧師を最後まで看護された方です。

又、世界各地に多くの宣教師を派遣しているルーマニアペンテコステ教団のゲオルグ・リッツシャン師やルーマニアを代表する彫刻家リビウ・モカンさんの証しも聞くことが出来ました。モカンさんの作品は聖書と信仰に基ずいており、その代表作はクルージュの町の中心にある広場に革命記念のシンボルとして設置されています。7体の棒状のブロンズで共産党政権下で迫害を受けた人たちの銃口の傷跡とイエス・キリストの十字架の傷跡を思わせるとも印象強い作品です。



このような集いを準備して下さったフランクフルトの矢吹先生、ルーマニアの川井先生そして実行委員会のお一人お一人に心からの感謝をお奉げ致します。本当に有難うございました。



聖徒の死は主の目に尊い

中井美鈴

Calvary Chapel South Bay (Ca. USA)

今回はお招きいただき、心から感謝しています。ヨーロッパ各地から参加された皆様お一人一人とお会いでき、多くのことを学ばせていただきました。



アメリカとは違い、各国がそれぞれの文化、習慣、言語を持つヨーロッパ、その中で主にあって1つの体として働きをされるご苦労を垣間見ました。

クルージュ空港から出て来た時、川井牧師が用意してくださった大型バスが待っていてくれたのが嬉しかったです。

証をさせていただいたリチャード・ウォムブランド師(Richard Wurmbrand)は、1945年から1989年の荒れ狂った共産主義独裁の恐怖政治下のルーマニアで 主イエスキリストを愛するゆえに投獄に甘んじ、筆舌に尽くしがたい拷問にも耐えた牧師で、政権の腐敗で経済的疲弊、政治犯、宗教犯として国外へ売られ、共産主義と手をつなぐキリスト教会からは 迫害された時期を過ごしました。

「共産主義国家には信仰の自由は無い」とはっきり宣言した、東ヨーロッパからの初めての牧師です。彼の書いた著書『地下運動の声』は、1967年頃瞬く間に世界のベストセラーとなりました。この本を読んで、私は「この本は紙とペンではなく血と涙で書かれた」との著者の言葉を重く受け止め、本書の全部を真実と信じました。その時以来ほとんど毎日、ウォムブランド師家族3人、そしてルーマニアとソビエト連邦の下にある共産主義国家のために祈り始めました。



その心を与えられたのは、実に神であります。「彼らが必要な時が来たら、私は彼らのために自分を使いま

す」というのが祈りでした。

そして、ついにその祈りが答えられる日が来ました。アメリカ国内の飛行機の中での奇跡的な出会いでした。



彼らの晩年を毎日お世話できた事は、私に対しての神からの応答であり召命でもありました。子どもたちもよく理解して助け、励ましてくれました。

20世紀の聖人、鉄のカーテンのパウロと呼ばれたウォムブランド牧師。身体には数十カ所の拷問された跡、焼きごてによる穴、ナイフで斬られた後が残っていました。体を拭くときは激しい痛みの為、膝から下の足を洗うことができませんでした。それは拷問で激しく打たれた故でありました。

2001年2月17日、彼の息が完全に主なる神のもとに帰った時、私は初めて彼の足を手に抱き、アメージンググレイスを賛美しました。その足で主の御足の後を歩いたキリスト者。「聖徒の死は主の目に尊い」という主の言葉が臨みました。

彼の妻サビナと息子のミハイも忘れることはできません。共に戦った人々であります。ミハイは今、“Help for Refugee”の名で投獄された家族たちを支援しています。



オプションツアーで、シゲツに建てられた迫害記念館に行ってみたものは、今も心に焼き付いています。祈りの心を持って、是非とも訪れたかった場所でした。

まだ自由に福音を語れる私達は、現在迫害下にある多くの兄弟姉妹を覚えて祈ることが自由諸国に住む者の務めと考えます。

皆様の温かいおもてなし、忘れることは決してありません。実行委員会の皆様、主が豊かに報いて下さいます様に。主なる神の豊かな祝福が皆様と共にありますように。主に栄光を帰して。

シゲツの迫害記念館およびミハイ・ウォムブランド氏のインタビュー動画が次のサイトでご覧いただけます。(英語)

helpforrefugees.com

richardwurmbrandfoundation.com

次のリンクで地下運動の声の日本語版が読めます。(無料) → [地下運動の声/日本語版](#)



主は私の羊飼い

藤原誠

スイス日本語福音キリスト教会

運営スタッフの一人として参加した今回のキリスト者の集い。自分の担当箇所の事前準備が十分にできなかったこともあり、当日は予想以上にてんやわんやで、集会中に静まって御言葉に耳を傾ける時間がほとんどないまま終わってしまった。しかし、そんな私にも数少ない機会を通して主が語ってくださったことがある。

「あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。(第一ペテロ5:7)」

最終日の早天祈禱会の中で開かれたこの御言葉から私は大きな慰めを得た。

この早天祈禱会ではマタイ14:22-33のペテロが水の上を歩く箇所から浅野康先生がメッセージをして下さった。



ペテロはイエス様を見つめて水の上を歩き出すものの、強風を見て怖くなり、沈みかける。そんなペテロにイエス様はすぐさま手を伸ばし、彼を掴んで救い上げる。

メッセージの中では、私たちの人生も問題だらけであるが、問題一つ一つを凝視するのではなく、神の御業と約束に目を留めることが語られた。心配性な私は「先が見えないこと」にすぐに不安を覚え、あれやこれやと考えを巡らし焦り始める。考えること自体がいけないとは決して思わないが、何よりも忘れてはいけないことは、私たちの羊飼いである神ご自身が羊である私を誰よりも心配し気にかけてくださっていることだ。



羊飼いである神の羊の群れの中にいるとき、私たち自身が気づいていようがないが、私たちは良い羊飼いによって既に保護されており、その御手の中で養われている。教会の多くの人たちが具体的に私の将来を心配し気にかけてくださるのも、私が属する群れはそんな羊飼いによって牧されている羊の群れであるからに他ならない。「あなたが抱えているその思い煩いをわたしはよく知っている。だからそれをわたしにゆだねて、安心して歩めば良い。」これまでも幾度となく教会で聞いてきたメッセージを、御言葉を通して主から語られた思いがした。

主に在る交わりの醍醐味

ヴェリンガ明美

オランダ南部日本語キリスト教会

神の子どもとされた兄弟姉妹が、今年はルーマニアのクルージュ・ナポカの地に集合して、共に賛美し、御言葉に聞き、分かち合い、祈り合い、食事をし、語りあった神の家族の集まりは、とても素晴らしいものでした。参加出来た恵みに、父なる神様に深く感謝致しました。テーマの講演から、恐れや思い煩い、身を守るための武装、罪の奴隷の頸木(くびき)、この世の価値観など、縛られているものから解放されるには、真理を知り、主の御霊の中に入れられて、人は真の解放を得られることを新たに教えられました。



ビルインツァ・バプテスト教会(バイアマーレ市)

リチャード・ウォムブラント牧師のことは、集いで初めて知りました。キリスト教牧師というだけで14年間も投獄され、拷問に耐え抜くことができた彼の信仰の強さに感動しました。ルーマニアは僅か30年前に独裁政権から解放され、新しい風が吹き、人々は自由になり、国は近代化が進んでいます。宣教師を70組も世界に送り出している信仰の篤さと、聖霊の風を思い、感動しました。

まるで旅行会社の添乗員とガイドのように案内して下さった、川井勝太郎宣教師と奥様佳代子姉とミノドラ姉の引率によるマラムレシュ地方を訪ねるオプションツアーは、充実した素晴らしいものでした。世界遺産になっている18世紀に建築された美しい木造教会と修道院は、西欧のものとは違って見物でした。

バイアマーレのビルインツァバプテスト教会の夕拝で、国と言葉を超えて共に主を賛美し礼拝を捧げることが出来た喜びは、何にも代えられないものでした。

「見よ。兄弟が共に座っている。なんという恵み、何という喜び。」(詩133:1) また、「谷川の流れを慕う鹿のように…」と、聖歌隊が日本語で歌い始めた時はびっくりし、愛ある歓迎の心配りに感動しました。

用意して下さった夕食の時にも、一同声張り上げ賛美しました。主に在って一つ、その素晴らしさと喜びは、主に在る交わりの醍醐味でした。アジア、アメリカ、アフリカから参加者のある“在欧邦人クリスチャンの集い”、主がこの集いを喜んでくださり、祝福して下さって、これからもずっと開催されることを願っています。

主にある一致

吉田隆

京都キリスト福音教会

この度は、第36回集いをご準備くださりありがとうございました。長らく、参加したいと願いつつ諸事情によりかありませんでしたが、この度、初めて参加することができ、本当に嬉しく思います。

開催のためには、非常に周到なご準備が必要であったことを察し、感謝いたします。また、開催期間中もあらゆるご配慮をくださり、参加者が心地よく滞在できるようにご配慮くださいましたことを感謝いたします。



【施設】：この度宿泊させていだきましたホテルは、とても設備もよく、料理も美味しく、3食にわたって、豪華なお食事を頂戴することができましたことは大きな恵みでございました。公園の近くという緑があり、環境もよく、街へもそれほど遠距離ではなくて、出かけることができる立地条件でした。タクシーも安価で利用することができました。



【プログラム】：ルーマニアにおける歴史的なことがらを踏まえた上で、日本の諸先生方から深いメッセージをうかがうことができました。

ルーマニアにおいて開催されたという意味を考えますと、今回のようにルーマニアのメッセンジャーの声を聞くことができたことは大変意義深いことでした。同時に、欧州に住む日本人の集会であることを考えると、その視点から日本人の先生方がご奉仕くださったことは意義あることでした。

【展示】：今回は、展示もあるとのこと、妻が出展をさせていただきました。大きな意義のあることであつたと思えます。

【T&Y】：私は参加していませんが、午後に実際の伝道の機会があつたと聞いて、大変励まされています。こうしたことは、毎回繰り返されたならば大きな祝福だと思えます。

【ツアー】：最初の晩、ルーマニア人の教会で、日本人が奉仕をさせていただくことができたことは大きな恵みでした。ルーマニアの方々も暖かく歓迎してくださり、日本人も大変嬉しく思いました。夕食会では、賛美が捧げられ、ルーマニア語と日本語がからみあって、同じ賛美をささげ、主にある一致を体験しました。正教、カルヴァン派の教会など、遺産を拝見することができ幸いでした。



これらのことをご計画くださった、フランクフルトおよびルーマニアの実行委員会のみなさまに、主の大いなる報酬をお祈りすると共に、心からのお礼と感謝を申し上げます。主に在りて、平安！

買い戻された自由

匿名さん

フランクフルトとクルージュ！国を幾つも隔てた二つの群れの共催は画期的であり、東欧ルーマニアでの開催にも感激しました。準備に於いて様々な困難があつたと(特に初日)言われていましたが、そんな困難も、恵によって祝福と喜びに覆われてしまったと思います。「解放された者として生きる、、」は信仰の本質に関わる重要なテーマと思えます。特に村岡先生の講演は素晴らしく、印象に残りました。

私達は代価を持って買い取られた以上、キリストの僕(奴隷)として愛を持って仕え合う、その為に自由を楽しみ、生きる喜びに溢れたいものです。



感謝なこと。

永井敏夫

在欧日本人宣教会

*チームワーク

・笑顔:実行委員会のみなさんが笑顔で奉仕しておられたことを感謝します。誰もを歓迎しておられるイエスさまの心を感じました。

・違いと信頼:矢吹先生、川井先生が互いを尊敬し、信頼しながら、また違いを認めながら歩んでおられる姿に励まされました。共同開催にはさまざまな困難があつたことでしょう。イエスさまの祝福が豊かにありますように。

・宣教への情熱:ルーマニアの教会の様子、宣教への情熱を知り、受け止め、祈る機会が与えられたことに感謝します。ルーマニアの教会と共に歩んでおられる主に、これからも祈ります。



賛美への感謝

関谷典子

浦和福音自由教会

音楽は、小学校の授業の時に嫌な思い出がありそれ以来、心が離れてしまいました。38歳で主に出会い洗礼の恵みをいただき、今回のメッセージにもありましたように、神様の方に180度向きを転換した時からまた音楽に触れる恵みの時が始まりました。

教会では、いつも音楽があふれています。オルガンやピアノの前奏で礼拝が始まり、賛美（歌）を献げます。久しぶりに音楽との関わりが始まったとき、シュツトガルトで共に賛美していた声楽家の姉から、『「聖歌隊」に入るといいわよ。』と勧められ、日本に本帰国した際に、通っていた教会に聖歌隊があった為にそこにいらしてもらいました。

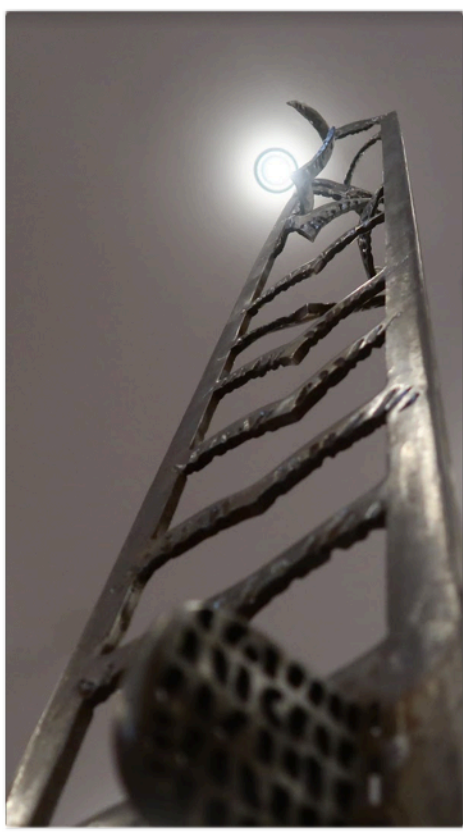
中学生以来の譜読みは難しく、したこともない合唱の歌い方に戸惑い、2ヶ月ほどで逃げ出しました。ですが、気持ちが落ち着かない中、詩篇146：1-2の「ハレルヤ。私のたましいよ。主をほめたたえよ。私は生きていますかぎり、主をほめたたえよう。命のある限り、私の神に、ほめ歌を歌おう」に出会い、今度は主に促されて聖歌隊に戻り訓練を受けました。



クリスマス・受難コンサート・イースター・ペンテコステ・・・と多くの賛美を献げるようになり15年が経ちました。聖歌隊の指導の先生からは、「綺麗に歌おうと思うのではなく、心から主を賛美して」と言われます。主に向かって、主を賛美するのはもちろんですが、「賛美は宣教！」聖書の言葉を歌う大切な宣教の時と、教えられ聖歌隊で訓練を受けました。更に言葉の一つ一つが聴く方々の心に届き、主がその方の魂の救い、慰めや励まし、癒やしを賛美を通して成してくださるようにと、音楽的に足りない所は、祈って主に補っていただいています。

音楽に触れるようになった不思議を思い、自分の人生を振り返る中、2歳の誕生日に親戚がそろそろ席で前に出て私が歌を歌っている写真が出てきました。幼い頃は、宴会の席で歌を歌わされていたことを思いだし、神様は、すでに備えてくださっていた事を覚えて、その預かっている賜物を磨きなさいと教えてくださいました。

私たちの生きる目的の一つに「主を賛美すること」があります。これからも礼拝の中で生きている限り、喜びにあふれて主を賛美できるようにと願っています。



解放された者として生きるということ

M F

バルセロナ日本語で聖書を読む会

解放された者として生きるというテーマの意味が正直、集いの前はよくわかっていませんでした。しかし、この4日、講演、分かち合い、賛美、証し、またアートを通して、私に筋道立てて説明してくれました。特に印象に残っているのはリビウ・モカンさんのハシゴの彫刻です。

はしごの下部分は錆びていて登りにくいですが、上に登るにつれて、錆がなくなり、やがて鳥に変化し、鳥のように自由に羽ばたいていくという作品でした。それは今回のテーマ、解放された者として生きるを見事に芸術を持って表現していると思います。

私がヨーロッパ・キリスト者の集いの中で一番好きな時間は、または一番楽しみにしていたのは賛美の夕べです。202人も参加者が同じ神様を見上げ、声を合わせて賛美する時、私は鳥肌が立つ思いにかられます。私は聖歌隊には入っていませんが、なぜか聖歌隊の一員として歌っている気分になり、それは言葉ではうまく例えられない、素晴らしい気持ちなんです。

このような日本人兄弟姉妹がヨーロッパ各地にいて、年に一度こうして集まり、またそれが36年も続いているということに感動すると共に、感謝の思いでいっぱいです。集い実行委員の皆さん、また集いへの参加を可能にしてくれたバルセロナの姉妹のサポート、全てを最善の形に整えてくださった神様に感謝します。

「解放された者として生きる」とは

ローレンツ・ベアント&真理

ハノーバー聖書の集い

第36回ヨーロッパ・キリスト者の集いに参加できたことは私たちにとって素晴らしい特権(privilege)でした。ちょうど30年前、ルーマニアで革命が起こる1989年までは信仰にまったく自由がなく、酷いクリスチャン迫害のあった共産主義国ルーマニア・クルージュナポカ。それが今では解放された街として生まれ変わり、まったくの自由の中で私たちクリスチャンがヨーロッパの国々から主を礼拝賛美するために集まれたという神の偉大な奇跡を心から感謝します。

開会式当日の夕方は私たちの搭乗した飛行機のルート変更で2時間以上遅れての到着でしたが、空港の入り口フロアで準備チームの方々が大変心温かに私たちをお出迎えくださり、何の問題もなくスムーズに会場ホテルへ移動することができました。

クルージュの街なかを歩いていて感じましたのは、活気的で新鮮な雰囲気と生きて働かれる神様の新しいいぶきでした。当時共産党政権下14年以上も入獄迫害の経験をした故ルーマニア人牧師、リチャード・ウォムブランド師と奥様の世話をされたアメリカ在住の中井美鈴姉の証をはじめ、証言者たちの大変貴重な生の声を聞かせていただきました。

集いのテーマである「解放された者として生きる」とは、自分にとって実際どういうことなのか？それは弟子である私たちが、今おかれているところで今できることをすること。主ご自身と主にある兄弟姉妹と交わり、天父の御国を思いつつ、この地上で生きることではないかということも学びました。



この素晴らしい集いが催されるために準備奮闘されたチームの皆さま、分科会を指導された皆さま、各セッションで説教奉仕をなされた先生方、通訳チームで活躍された兄弟姉妹に今一度改めて心からのお礼を申し上げます。

Das 36. Treffen der japanischen Christen aus Europa war für uns ein Privileg.

Bis zur Revolution im Jahr 1989, also vor genau 30 Jahren, gab es dort keine Glaubensfreiheit. Die Stadt Cluj war unter dem Sozialistischen Regime, und Christen wurden mit aller Härte verfolgt. Aber heute ist sie eine befreite Stadt, sodass die Christen aus Europa sich in Freiheit versammeln können, um den Herrn gemeinsam anzubeten.

Wir sind Gott sehr dankbar für seine Wunderwerke für Rumänien.

Am Abend der Eröffnung kamen wir mehr als 2 Stunden später als geplant im Flughafen Cluj Napoka an wurden aber von den Mitarbeitern sehr herzlich begrüßt und ohne Probleme bis zum Konferenzhotel gebracht.

Wir gingen durch die Stadt und bemerkten dabei die lebendige und frische Gegenwart des Heiligen Geistes, dass der Herr gegenwärtig dort wohnt.

Von der Zeitzeugin Frau Misuzu Nakai aus Amerika hörten wir über

das Leben von Pastor Richard Wurmbrand, der wegen seines christlichen Glaubens unter der damaligen kommunistischen Partei im Gefängnis saß und Folter erlebte. Er bewahrte in der schlimmsten Verfolgung den Glauben an seinem Gott.

Was bedeutet das Thema „Als befreite leben“ für uns konkret?

Es bedeutet für uns in jeder Situation, die von Gott gegebene Freiheit zu nutzen, um Gott in seinem Reich zu dienen und dies auch mit Geschwistern im Glauben gemeinsam zu tun.

Wir bedanken uns an dieser Stelle noch einmal ganz herzlich beim Veranstaltungsteam, den Predigern und dem Übersetzerteam, ohne die die gesamten Seminare und Treffen nicht möglich gewesen wären. Danke für die sehr gesegnete Zeit, die Ihr ermöglicht habt!



オペラ座 (ルーマニア語)

市内にはハンガリー語のオペラ座もある



「なぜイエスを信じるのか」と問われた時

西川颯香（さいか）

オランダ日本語聖書教会

今回が初めての参加となりましたが、ヨーロッパ各地から来られた様々な背景を持たれている方々とお会いすることができ、とても良い経験となりました。参加者は私の母と二人の妹を入れた四人でしたが、ここには私個人の感想・証を記したいと思います。

グループはT&Yの方に参加しました。信仰において、私にはいつも心に引っかかることがありました。それは、なぜキリスト教であるのか、つまり、自分はなぜ他宗教の神ではなく、聖書の神を信じるのかという点でした。こう記すと異端的であると思われるかもしれませんが、私は決してキリストご自身を否定したいのではありません。ただ純粋に、もし自分がイスラム教徒の家に生まれたならば、イスラム教徒となっていたであろうという仮定を意識せざるをえないのです。

このような考えに陥った経緯の一つとしては、第二世代信者であることから、全くかけ離れたところから神様の救いへと導かれた方と違い、生まれた時からキリストのすぐそばで生き、それ自体が自身のアイデンティティに組み込まれていることが挙げられます。すぐ近くにあったからこそ、自分で意識するという機会が限られるのだと思います。

さて、今回の集いで私が得た最大の贈り物は、世界各地から集いに参加された方々とお会いすることができたことでした。色々な方の信仰に至るまでの経緯や、かつてされた苦悩な

どを聴き、自分自身に照らし合わせることができました。

その中でイスラエルに住まれている方の体験談が印象に残りました。イスラエルには世界の大きな宗教がいくつも集まっています。また、イスラエルに住む多くの方が議論を好む傾向にあり、特に宗教の話になると一段と盛り上がるそうです。「なぜ自分はキリスト教なのか。なぜキリストを信じるのかを毎日問われる事になる」。それを聞いたときに私は果たして「なぜキリスト教なのか」「なぜイエスを信じるのか」と問われた時に少しも疑わずに答えられるかと不安になりました。



しかし、お話を聞いていくうちに、その方も同じように悩み、そして今

も神様と向き合い続けていると知ることができました。私は今だにすべてにおける絶対を見出せておらず、また、自分自身の確固たる自己の存在もありません。けれども、イエス様の声に気をつけて主の導かれるところを辿れば、それらの答えに到達できると信じたいです。

最後に、今回の集いで唯一とても残念に思ったのは、ルーマニアに関する講演、特に迫害下での宣教をテーマとしたお話がT&Yのプログラムに組み込まれていなかったことでした。せっかくヨーロッパ各地で開かれる集いなので、そういった現地でしか聴けないような貴重なお話にはぜひT&Yも参加できたらと思いました。



集いで再発見した神の力

橘川弘毅

デュッセルドルフ日本語キリスト教会

今から21年前、1998年にケルンで開催されたヨーロッパキリスト者の集いでのこと。私が、初めて聞いたルーマニアのチャウセスク政権下で迫害されていたクリスチアンの話。当時も若さに溢れていた川井勝太郎先生が、講演で熱く証をして下さいました。

当時の「集い」で、どの先生が何を話してくださったかも記憶に無いのですが、川井先生がお話くださったルーマニアのある兄弟の話は、今でも覚えています。布教活動を抑えるため、ルーマニアの教会は聖書を数冊のみしか持つことが許されていなかった時代、その兄弟は聖書を全て丸暗記していたという事。溢れ出る信仰の故に収容所に送られたにも拘らず、収容所でもその生き方は変わらなかったため、クリスチャンが収容所に増えてしまい、結局釈放された事。



川井先生はその兄弟から直接聞かれた話を、熱く語って下さった事を忘れる事はありませんでした。

その話から、リチャード・ウォムブランド師の事を知り、つい最近までルーマニアでは命を懸けてキリストの為に迫害を受けた信徒の方々がいたという事実に衝撃を受けるとともに、福音には迫害をも乗り越えさせる力と希望を与える何かがある、という事に気付かせて下さったのが、今から21年前でした。

今年の「集い」は『解放された者として生きる—東欧解放30周年に、ルーマニアで—』というテーマで開催されました。当然、21年前にお聞きした話の地に行きたいという思いで参加致しました。この「集い」では、

さまざまな視点から『解放された者』についての講演と礼拝での説き明かしがありました。恐れからの解放、弱さからの解放、思い煩いからの解放など、解放された者として生きる為に、聖書の御言葉から福音が語られました。



その中で最も印象深かったのは、ヨハネの福音書8章1-11節の御言葉から説き明かされた「ただ恵みによる解放」でした。姦淫の場で捕えられた女に向かって、イエスが

「わたしもあなたを罪に定めないと」言われたのは、あなたの罪を見逃してあげる、という意味ではなく、その言葉の奥にあるイエス様の赦しについての福音を知らされた時、この神が唯一で真実な私達の神である事に、本当に感謝だと思わされました。

「福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。」(ロマ1; 16)

この「福音」は、「救いを得させる神の力」。「神の力」とは、「力ある業」とか「奇跡」とも訳せるそうです。福音は、神の奇跡。私達がただ字面だけを追っただけでは御言葉は、神の奇跡にはなりません。この「集い」のように御言葉が語られる時、御言葉に福音の「いのち」が与えられ、私達を救う、神の奇跡になる、というパウロの言葉は本当たと、この「集い」で再発見する事が出来ました。

30年前に開放されたルーマニアの兄弟姉妹たちも、私達と同じ福音を頂いている事に気が付き、もっと御言葉を大切にしなければ、という思いを後にクルージュ・ナポカから、主から与えられている「任地」に戻ってきました。

今年の「集い」を開催下さったフランクフルト日本語福音キリスト教会と、トランシルバニア日本語集会のそれぞれの教職者の先生方、兄弟姉妹方に感謝致します。来年はデュッセルドルフでの開催となります。御言葉を愛する兄弟姉妹の方々、また救いを求めておられる方々と共に、主に会える「集い」にさせて頂きたいと願っています。お祈り下さい。



御霊の働き

内村まり子

ミラノ賛美教会



主の御名をほめたたえます。
主が私達を導いて下さり、心からの賛美を主に捧げることができました。主が受けて下さったことを信じ感謝します。

2007年にミラノでキリスト者の集いを主催した時に、歴代誌Ⅱ5：13～14の御言葉が与えられて賛美隊を編成し、それから私は賛美チーム奉仕を担わせて頂くようになりました。

"ラッパを吹き鳴らす者たち、歌い手たちが、まるで一人のように一致して歌声を響かせ、主を賛美し、ほめたたえた。そして、ラッパとシンバルと様々な楽器を奏でて声をあげ、「主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで」と主に向かって賛美した。そのとき、雲がその宮、すなわち主の宮に満ちた。祭司たちは、その雲のために、立って仕えることができなかった。主の栄光が神の宮に満ちたからである。"

今年は、カジノでの伝道音楽会、賛美の夕べはゲストによる音楽会が予定されていましたが、場所が使えなくなり、ゲストの方が来れなくなった経緯を伺い、主の導きの中、改めて賛美奉仕まとめ役を担うことになりました。

『Amazing Grace』をテーマ曲にし、主にあつて罪の奴隷から解放される自由、主の恵みを歌い、主に賛美捧げられるよう賛美スタッフと共に備えました。スタッフは毎年交代しますが、信頼関係を大切に、主がすでに備えておられると信じて取り組みます。でも心揺らぐこと、色々な失敗もあり、互いに悔い改め、祈りあいます。賛美奉仕者21名、各々の賜物とチームワークが生かされ、会衆が心がひとつとなり賛美捧げられるのは御霊の働きなのだと思います。

主の御名によって集まる時、悪い者との霊的戦いが必ずあり、その戦いの最前線に立つのが賛美チームです。主への賛美を高らかに歌い始めると、主が勝利され、主に心が向けられてゆきます。この奉仕を通して養われた賛美の心、主の祝福を次世代の方達に受け継いでいきたいと願わされています。

主の御名によって集まる時、悪い者との霊的戦いが必ずあり、その戦いの最前線に立つのが賛美チームです。主への賛美を高らかに歌い始めると、主が勝利され、主に心が向けられてゆきます。この奉仕を通して養われた賛美の心、主の祝福を次世代の方達に受け継いでいきたいと願わされています。



「愛は犠牲を伴うもの」

ピーケンブロック伊登

ベルリン日本語教会

私達夫婦にとって「集い」は4回目、前回はデュッセルドルフ教会主催のヴィッテンベルグでしたので、11年ぶりの参加、ベルリン教会に所属しての参加は初めてでした。

3月の礼拝で、今年の「集い」はルーマニアで行われるとの案内があり、その開催場所に心が動きました。というのも、白い妖精コマネチの活躍に魅了された10代の頃、ルーマニアに関する情報を夢中になって集めていたものでした。

それに加えて、ベルリン日本語教会に数月前から通っておられる84歳のT氏が「二人が行くなら私も一緒に行きたい」との一言。これで気持ちが固まり、申し込みました。その後、神様がよい備えをくださいました。実行委員会から、奉仕希望者不足と割り振りの都合で、スモールグループリーダーを引き受けないか、とのメールが来ました。



この口下手の私でもどうか務まるように祈りました。一ヶ月前には讚美奉仕のための楽譜も送られて、わくわくしながらの準備でした。1300キロの車の旅は目的地までの遠いことを感じさせられながらも無事守られ、恵みをすでにたくさん頂いてクルージュに到着しました。

「集い」では先生方のお話を短期間に集中して聞けることが大きな恵みの一つです。この文章を書きながら「恵み」という言葉を繰り返し使っていますが、今回、イエス様が十字架にかかれたこと、それがキリスト者にとっての恵みなのだ、ということを教えられました。

また、醜い自分を見出し悔い改めるとき、イエス様はよく気づいたね、うれしいよと抱きしめてくださるお方だ、と言いつけてくださったお話から、神様は忍耐のお方であることが改めてわかりました。

愛は犠牲を伴うものなんですよ、と きっぱりおっしゃった先生の声も心に残っています。こうやって振り返るとき実行委員会のみなさんが、多大な時間と労力を費やして、まさに犠牲をはらって準備してくださったことを思います。ほんとうにありがとうございました。



土の器、欠けだらけの私 熊谷節子 所沢福音キリスト教会

「ふとルーマニアで集いをする事ができるなら、革命30周年の2019年ではないだろうか、などと思わされたのですが ~ この素晴らしいルーマニアという国を紹介したい、日本を愛して集まって来るルーマニアの若者たちに会って欲しいと思う気持ちはこれからも強くなるのでしょうか。中東からの移民もほとんど寄り付かないルーマニアは(特に私の住むトランシルバニア地方は)大変治安の良い街として成長しています。

大学生も多く、活気のある美しい街は一度訪れた人が想像以上に良かったと言われます。近年は欧州全域からの直通便も増え、ますます便利になりつつあります。毎年、長い距離を旅行して、随分色々なところで皆さんと集いを楽しんできました。一度ぐらい私のいるこの街で、と思いつつ、遠い、暗い、危ないなどの先入観で何度もつぶされて来た悔しい過去も思い返しながらか ~ 欧州の隅っこ、クルージュナポカの書齋にて」

3年前に書かれた川井先生のお証をもう一度読み返し、先生の願いが叶えられて革命30周年の今年、ルーマニアで集いが行われた事は何と感謝な事でしょうか。普段お聞きすることのできない先生方のメッセージに学び、ここでしかお会いできない方々との再会、又新しい出会いが与えられる恵みは集いに参加させて頂いてこそ喜びです。



テーマは、「解放された者として生きる」でしたが、解放30年で今やルーマニアは多くの国々に宣教師を送り出している事を知り、一つ一つの集会で語られるメッセージや証言は、私の心に響き、時には突き刺さり、自分の信仰の生ぬるさを恥じる時もありました。

「キリストは自由を得させる為に私達を解放して下さい、それは自分で勝ち取ったものではなく与えられたものである」「主の十字架の苦しみと死によって私達はサタンと罪と死から解放された」ハレルヤ！感謝します！今回ベビーシッターの奉仕があったのですが、キャンセルになり全ての集いと分かち合いに出席する事ができました。

与えられた恵みと学びと気付きの全てをここで述べる時間はありませんが、メッセージで語られた「神様から与えられた賜物を最大限用いる事」を思う時、川井先生のギターでお二人の姉妹方が賛美された「土の器、欠けだらけの私 ~ だから今主の愛に応えたい、私の全てで用いて下さい主よ、私にしか出来ない事が必ずあるから」、本当に欠けだらけの者ですが、主に用いていただきたいと思えます。

自由時間の時、街歩きと岩塩坑に連れて行っていただきました。川井先生に説明していただき、先生が上の文

に書かれていたとおりの美しい街を散策しました。岩塩坑は夏休みの土曜日だったせいでしょうか、大勢の観光客で集合時間が過ぎているのにまだリフトは長蛇の列、でも集いのお仲間がまだ何人も。しかもこの夜のメッセンジャーの佐々木良子先生もいらして安心(?)。

オプションツアーでは、バイアマーレのパプテスト教会で夕拝に出席し、クワイアの方々が日本語で「鹿のように」を賛美して下さい感動、夕拝後ご馳走をいただき時間を忘れてのお交わりには心が温くなりました。

シュルデシティ村、ブデシティ村の木造教会やブルサナ修道院はとても見応えがあり、サプンツァ村の「世界一陽気なお墓」は、正に日本では考えられないほどほんとに陽気なお墓でした。この「世界一陽気なお墓」の事は、百万人の福音4月号の表紙と記事で紹介され読んでいたので、ここに行く事が判った時はとても驚きました。迫害博物館メモリアルは、今まで見学した事のある収容所などを思い起こし、又ウオムブランド牧師の壮絶なお話をお聞きしたばかりだったのでとても心痛みましたが、壁に大きく「そして、あなた方は真理を知り、真理はあなたがたを自由にします」とのヨハネ8:32の御言葉が掲げられていた事は救いでした。最後の日クルージュナポカに戻る途中、このツアーにずっと同行し通訳をして下さったミノドラさんの故郷デジを訪れ改革派教会と市立博物館を見学しましたが、教会では「アメイジンググレイス」をみんなで賛美する事が出来ました。



ホテルに戻った後、聖ミハイル教会そばのホテルに移動し2泊したので、散歩中のご夫妻とバッタリお会いしたり、「桜カフェ」まで歩いて行きカキ氷とアイスをいただき、先客のご夫妻やミノドラさん、川井先生とも再会し、旅の最後の良い思い出となりました。クルージュナポカには、又機会があれば是非訪れたいと思います。

帰国の日クルージュナポカの空港で、いつも集いの素晴らしい記録を作って下さる松林さんご夫妻とお会いしお話が出来ました。ミュンヘンまで同じ飛行機だったのですが、出発がかなり遅れて私は羽田への乗り継ぎに間に合うか間に合わないか、走り、走り、走り、しかし間に合わずドツと疲れが。でも5時間後の便が取れ無事に帰国できました。

今回の集いの為、準備にどんなにか大変なご苦労をされた事でしょう川井先生ご夫妻、フランクフルトの矢吹先生ご夫妻、実行委員会の方々には感謝の思いで一杯です。そして様々なご奉仕をして下さった方々本当に有難うございました。日本から参加して恵みをいただくだけで、何のお手伝いもできず申し訳ない思いでいっぱいですが、来年のデュッセルドルフの次も、この集いが続けられる事を願いお祈り致します。



神の家族が集う素晴らしさ

高山菊江

ブリュッセル日本語教会

主人の赴任に帯同しベルギーに来てから1年が経ち、今回初めてこの集いに参加しました。

直前に川上先生ご夫妻が行かれなくなり、少々不安と緊張の中での参加でしたが、想像をこえた恵みに溢れた集いでした。個人的には久しぶりに日本語で御言葉を沢山学べたことがとても嬉しく、レーマの言葉としても神様から何度も触れられて、より深いイエス様との関係を体験できる時となりました。

すでに私達はイエス様の十字架で救われ、解放された者ではありますが、まだ解放されていない心の領域に神様が触れて下さり、久しぶりに素晴らしい時間を過ごすことができました。



私達はみな、顔のおおいを取り除けられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと主と同じかたち姿に変えていきます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。(IIコリント3:18)

この1年間初めての海外生活、母教会を離れての信仰生活に戸惑い、葛藤を抱えることが多々ありましたが、この集いでは奉仕もさせていただくことができ、久しぶりに与えることの喜びにも満たされました。奉仕を通して、一つの古い人の癖を手放すことができた体感がありました。

また、集いでは初めて会う方ばかりでしたが、初めて会った感じがなく親しみがあり、愛おしさが

沸いてきました。講演後の分かちあいの時、早天祈祷会では、祈りをもって互いに心に励ましを与え、受け取ることもでき、神の家族が集うことの素晴らしさをかみしめてきました。

実行委員会のみなさま、そして、全てに感謝し、この集いが今後も祝福され続けていけますようにお祈りします。

集いを通して

JU

南ロンドン日本語キリスト教会

私は今年2月より1年間企業派遣によりロンドンで働くことになり、今回の集いに参加することができました。実は、ヨーロッパキリスト者の集いについては、さかのぼること9年前、フランスに留学していた際にお聞きしておりましたが、その際は帰国日程の関係で参加が叶わなかったため、もしもう一度ヨーロッパに来る機会があれば参加できたらいいなという気持ちでございました。

そのため、春の申込み時点では、まだ仕事の様子や見通しが全く分からない状態でしたが、全てが守られるという期待



を持っていました。実際に直前に様々なことがあったにもかかわらず、無事参加することがゆるされたこと自体が私にとって非常に大きなことでした。

集いの中で語られたこと、交わりの中で深められたこととして、日常の生活でつつい自己中心的な思考に埋没し、他者を責めがちな自分自身を見つめなおすきっかけを与えら

れたと思います。特に罪からの、ただ恵みによる解放が語られ、それを自分にあてはめた時に、本当にただ神の憐みの中で生かされているにすぎないという事実で改めて目を向けることができました。



そして、目の前のことに心の大半を奪われ、大切なことが何かを見失いやすい日常において、自分の軸として神様との深い個人的な

交わりをより求めていきたいという気持ちを強く持ちました。

さらに、今私にゆだねられている、与えられているものがどのように用いられていくのか、ルカの福音書16章で語られた通り、賢く知恵をもって歩めるよう祈るとともに、神様のご計画に信頼して今後も歩いていくことができるよう願っています。

この集いでお会いすることができた皆様とまたどこかの機会でお交わりの時が与えられることを期待しております。



トゥルダ岩塩坑ツアー
市内散策ツアー



共に喜び、共に悲しみ、痛みを分かちあい

ウンターベルガー玲子

ウィーン・バプテスト教会／ペーハイムガッセ

去年、エジンバラでの集いに参加した時は、心身、靈的にも絶好調でしたが、今回は燃え尽き症候群ギリギリ手前、坐骨神経痛からのリハビリ中、信仰もかろうじて、『神は愛』『決してあなたを離れない』という聖書の約束にしがみついているだけの状態でのぞみました。

スモールグループで一緒にした方々はきっと驚かれると思います。というのも、今回、スモールグループのリーダー奉仕をしていたからです。実行委員会から奉仕の打診が来た時は、「神様がわたしをういようとされているんだわ」と喜んで引き受けました。しかし、徐々に靈的にも精神的にも枯渇していく中で、奉仕を引き受けたことを後悔し始めました。こんな状態で、奉仕なんかできるはずがないと不安で、奉仕から降りたいことをどう伝えようかと考えながら実行委員会にメールを書き始めていました。



そのとき、パウロの書簡にある、「わたしは弱いときにこそ強いのです。」という言葉思い出しました。神様がこのスモールグループを一人一人の信仰成長のために祝福し、ういようとされるなら、私の靈的狀態、精神狀態、健康狀態がど

うであれ、全うしてくださるはずだと考え直しました。私の信じる神様が本物で信頼を裏切らないと思っているなら、今私が弱いからといって奉仕から逃げるのは間違っているんじゃないかと思ったのです。ここで逃げるなら、神様の約束を経験するチャンスも逃してしまうとも思いました。奉仕を降りるにしても、集い開始まですでに秒読み段階だったので、実行委員会の皆さんにご迷惑をかけたくないという責任感が手伝ったのも確かです。。。

最終的に私がリーダーを務めさせていただいたスモールグループでの交わりが、各メンバーに祝福となったのか、私の拙い司会進行がその祝福の邪魔にならなかったかどうかは、神のみぞ知る。私には知る由もありません。少なくとも初めから最後のスモールグループタイムまで、一人も欠けることなく集まれたことからだけでも、神様は私の奉仕はそれで十分だと言ってくださったように思います。

また、各地からの牧師による御言葉のとりつぎや、今までの集いで知り合った兄弟姉妹との再会で得た恵みも数え切れないほどです。共に喜び、共に悲しみ、痛みを分かち合って得る慰めや励ましは、普段食卓を共にしていない兄弟姉妹だからこそ、余計に新鮮に心に響いてく

るように思います。離れていても主にあって同じ家族なんだということ。その一人一人と会って、信仰の体験を分かち合うことで、神様の大きな計画を肌身で感じ、励まし合うことができる集いは、本当に大きな祝福です。神様が今後この恵みをどのように展開しようとされているのか、また、どのような計画を見させていただけなのか期待しつつ、祈っていきたいと思います。

皆さんと再会できるのを楽しみにしつつ。。。



Berührende Lebensgeschichten

CHRISTOF UNTERBERGER

Baptistengemeinde Beheimgasse Wien

Einige Male durfte ich schon zusammen mit **Meiner Frau Reiko** am Tsudoi teilnehmen. Beim ersten Mal, 1995, waren wir noch nicht einmal verlobt.

Diese Konferenz begleitet uns nun schon über viele Jahre und ist meiner Meinung nach ein sehr wichtiger Fixpunkt im Leben eines Christen.

Ich durfte dort schon Freunde finden und die schöne Gemeinschaft genießen.

Ich habe auch Ermutigung, neue Impulse und berührende Lebensgeschichten erfahren.

Ich hoffe sehr dass diese Konferenz noch viele Jahre weiterbestehen bleibt!

集いには妻と一緒にすでに何度か参加させていただいています。初めて2人で参加したのは1995年で、当時はまだ婚約すらもしていませんでした。

私たち夫婦の歩みはこのカンファレンスと共にあり、思い返すとクリスチャン人生を送るにあたって、とても重要な土台となってきたように感じます。

友人を得、素晴らしい交わりに恵まれ、励ましや、新たなインスピレーション、心動かされる証しを聞くことができました。これからも末長くこの集いが続いていくことを願っています。



キリスト者の集い 記録ビデオ (ダイジェスト版)

宣教師が日本から世界へ

池谷孝雄

日本福音ルーテル東京池袋教会

30年前、共産党チャウシェスク長期独裁政権がベルリンの壁崩壊直後、同年のクリスマスに処刑された夫妻最後の衝撃的映像が世界を駆け巡りました。また集いの開催されたトランシルバニア地方は、ドラキュラ伯爵の小説が題材となった城があることでも有名です。私のルーマニアについての知識はその程度のもので、印象はあまり良いものではありませんでした。



近年の開催地ライプツィヒ、プラハ、スイス国境に近い南ドイツ・ザーベルスタインなどの魅力あふれる場所と比べ、正直、日本から参加したいという強い思いは募りませんでした。

しかし、結果は期待をはるかに超える実り豊かな集いとなったのです。

英国に居住していた頃、集いが草創期の時代にロンドン近郊で開催され、主催者側として欧州各地在住の日本人教会、集会から100人以上をお迎えしました。あれから32年、近年は300名を超える出席者となることもあります。仕事中心の生活から解放された最近では、主の働きや学びの場があれば、私は国内外を問わず積極的に出掛けるように努めています。海外の日本人（日本語）教会や集会の教職者、教会のリーダー達のヴィジョン、生きた証しに接することは実に良い刺激を与えてくれます。

このような教派を超えた“集い”は、今の日本では実現しにくいでしょう。皆が真剣に、情熱を持って各地で邦人伝道に携わる姿の中から、様々な苦労や問題を抱えていても尚、宣教の楽しさを教えてくれるのです。教派の異なる先生による一つのテーマに沿った講演内容は、不思議と調和が保たれ、主を褒めたたえることで一致するのです。それは、遣わされた国での宣教に裏付けされた学びによる生きた御言葉です。

この集いのもう一つの特徴に、国際結婚を含むファミリーと子供、若者達が多数集まってくることです。高齢化が常態化する日本の教会の現状は、伝統教派の私の母教会だけの問題ではないでしょう。出身国が異なっても会話は日本語というユースの群れの中に希望の光が見えます。



日本での教会年間受洗者総数より海外の日本人、日本語教会の総数のほうが多いという報告を聞いたことがあります。もし事実なら、この傾向は今後さらに顕著になるかもしれません。ザビエルの宣教開始から500年を超え、未だキリスト教不毛の祖国が覚醒する為には、こんな不思議な現象も起こり得るのではないだろうか。日本の教会はこの欧州の集いから学んで欲しい。この集いが日本の霊的覚醒のブレイクスルーになることを夢見ています。

リバイバルが起きる国の教会は宣教師を派遣するようになるそうです。ルーマニアは長い弾圧の下で希望を持ち続けた。その史実はリチャード・ウオンブランド著、「地下運動の声」に詳しい。解放されて一

気に宣教が拡大。1989年解放当時、教会の数は700だったのが2018年は3000に増えました。今では欧州、アジア、アフリカ各国に宣教師を送っています。

ルーマニアのように経済的には決して豊かではない国が霊的に燃えている。訪問したバプテスト系の教会では、経済大国日本からクリスチャンが大勢訪ねてくれたことを大変喜んでくださり、教会員一同の歓迎をうけました。驚くべきことに、この地に30

年近くもルーマニア人伝道に従事しておられる川井勝太郎先生という宣教師がおられます。

願わくは、近い将来ルーマニアから日本へ宣教師が派遣される日が来ますように。海外の同胞への宣教が祖国の教会を目覚めさせ、イエス様の偉大な宣教命令によって、宣教師が日本から世界に派遣される日がくることを祈ります。



主にある喜びに満ちた”集い”

内山義彦&和子

横須賀：馬堀聖書教会

今年もヨーロッパキリスト者の集いに参加させていただきます。私たちは今、神奈川県横須賀市に住んでいますので、日本からの参加です。



初めてこの集いに参加したのは2009年のフィンランド大会でした。主にある喜びに満ちた何という素晴らしい集いかと深い感動を覚えました。その後何回か参加させていただいていますが、毎回それぞれの地域の特性を生かした工夫のされたヴァリエーションに富んだ集いで毎回とても恵まれました。開催教会やほかの有志の兄弟姉妹のご協力があったのことに感謝いたします。

今年は東欧解放30年という特別な年にルーマニアにおいて解放されたものとして生きるのテーマのもとに牧師先生や宣教師の先生のリレーメッセージと沢山

の真実の証、賛美。またクリスチャン芸術家の作品を見せていただいたり盛りだくさんで大いに祝福されました。

オプションルツアームも感激の連続でした現地の教会での合同礼拝は本当に素晴らしい経験でした。ルーマニアのクリスチャンの方々が喜びに満ちて自由に賛美してお



られるのを見てまさに解放された生き様をみせていただきました。お心尽くしの歓迎夕食会も感謝でした。

ところで、再来年の第38回集いが今のところ主催教会が与えられていないということを伺いました。せっかくここまで続けてきた素晴らしい集いが途切れてしまうことはとても残念なことだと思います。主が御心のままに志をあたえてくださりこの集いがこれからも継続されますように祈らせていただきます。

川井先生ご夫妻と矢吹先生ご夫妻の全力投球のご奉仕に主が報いてくださいますように、お疲れが癒されますようにお祈りしています。ありがとうございました。

主に栄光がありますように！





T&Y

ティーンズ&ユース 感想と証

主から与えられた賜物

渡邊 航

デュッセルドルフ日本語キリスト教会

主の御名を心より賛美いたします。
今回のルーマニアでの集いに参加でき非常に感謝でした。私は集いの大半をT&Yと過ごし、たくさんの若い兄弟姉妹との交わりが与えられました。

今回の集いで改めて感じたことですが、ヨーロッパには本当にたくさんの日本語教会・聖書を読む会があってそれぞれの場に若者がおります。各教会にはそれほど数はいなくてもヨーロッパという枠組みだと本当にたくさんおり、こうして主が集いを通して私たちを集めてくださっているなと感じました。

これからの各教会を形成していくうえでそれぞれ主から与えられた賜物があり、教会の中で用いられていく務めがあるという自覚も感じました。共に協力していける強い味方だと思えることが何よりも感謝です。

引き続き主がヨーロッパの各教会を祝し、用いてくださいますように。



what touched me the most

ピブワース エイミー

南ロンドン日本語キリスト教会

At first I didn't have a good relationship with Jesus. I didn't believe he existed and I only prayed when I wanted something. A bit like a slot machine where you put money into the machine and expect something given to you in return. I did go to church, but I didn't really pay attention.

When my mum and dad told me that I would be going to the conference in Romania, I was really excited. I would get to see some faces that I haven't seen in a while, at the same time I was nervous talking in Japanese. On the first day I didn't talk to many people. I got involved in doing the PowerPoint slides which I really enjoyed. It was one of the reasons I became more sociable in front of the Japanese teens. On the third day at the art center, we looked at art and played some Japanese games. One of the games was a spinning top. My youth leader showed me how to play with the spinning top which I was very happy about. This is probably where I really came out of my shell and wanted to get to know God more.

Throughout the conference what touched me the most is how kind everybody was.



私が学んだこと

トムセン・ヨハナ

スイス日本語福音キリスト教会

今年のルーマニアでの集いに参加できたことを神様に感謝しています。2年ぶりに色々な人、また初めて知った人達に会えることができ、幸いでした。今回の集いで改めて学んだことは二つあります。

一つ目は、自分の力に頼ることではなく、神様の偉大な、想像がつかない力に頼る大切さです。二つ目は、聖書の言葉をただ単に読むのではなく、実行し適用する大切さです。

このことはユースのオプション・プログラムであったルーマニア人に福音を伝える時でした。自分自身では

絶対に動かすことができないと思う人を神様は目の前でその人の心を動かされました。次回もまた、受け入れるプログラムだけではなく、与えることができるプログラムがあっても良いと思います。



共に学び、励ましあい、証をシェア

トムセン・チャーリー

スイス日本語福音キリスト教会

今年の集いもいろんな出会いと学びを通してとても恵まれました。特に福音伝道の実践を通して、聖霊様の働きを実感できたことがとても大きな驚きであり、喜びでありました。

ユースのプログラムも参加者とリーダーと過ごした時間はとても貴重でした。こういう



形でヨーロッパ各地からのクリスチャンが集まり、ともに励ましあい、ともに学び、ともに証をシェアできる場があること、神様に感謝します。ありがとう！



同世代の人との交わり

ピーケンブロック 恩恵

ベルリン日本語教会

11年振り、2回目の「集い」参加しました。

「同世代の人との交わり」がこんなにも楽しいと思えたのが私にとっての驚きでした。

これが大事だ、と学校で既に習ったのですが、今まで私が経験したクラスは今回のT&Yほど居心地は良くありませんでした。

あの4日間、ほとんど初対面だったのにも拘わらず周りの皆んなが温かったおかげで、普段より自分らしさを出せて、久しぶりにとても楽しい時間を過ごせました。

「同世代の人との交わり」が構成や場所が変わるだけでこんなにも違いが出る… 良い意味で不思議だな、と思います。神様の導きかもしれませんね… ^^



集いを通してのネットワーク

ガウブ・ナタナエル

フランクフルト日本語福音キリスト教会

四年前初めて集いに参加させてもらった時、同い年ぐらいのユースに「ユースと一緒に座ろうや！」と声を掛けられました。とても居心地が良く、同世代の兄弟姉妹と久しぶりに賛美をし、スモールグループで交わりを持ち、楽しい時間を過ごしました。集いでヨーロッパに住んでいる沢山のクリスチャンに会えることが毎年の楽しみになりました。

今年の集いではティーン&ユースの奉仕をさせてもらいました。久しぶりな人や初めての人と時間を過ごせて、最高でした。その中で一番の喜びは、自分が行っている教会でなかなか会えない若者達が来てくれたことです。みんなと仲良くできて、フランクフルトに帰ってからも会うことができました。これからも共に会い、楽しい時間を過ごし、イエス様を知っていけたらいいなと思います。集いを通してのネットワーク、とても感謝なことです。



信仰において大切なこと

西川 颯香 (さいか)

オランダ日本語聖書教会

今回、集いに初めて参加しましたが、年齢、定住地、言語などを越えた繋がりを持てたことが、最大の贈り物だと思います。また、色々な人の体験談や、真心こもったお話を聞くことができ、様々な場面で心を動かされました。これまで全く気づかなかったことにはっとさせられたり、自身の課題にも向き合うことができました。集いで四日間が与えられたことに、本当に感謝でいっぱいです。

さて、私が個人的に感じた改善点、フィードバックは以下の通りです。

- 1 T&Yのタイムテーブルについて。個人的に参加前から楽しみにしていたルーマニア関連のお話、特に迫害下での宣教や、当時の生活などに関する講演を聴くことができなかつたのは大変残念でした。せっかくヨーロッパ各地で行われている集いなので、その土地でしか聴けないようなお話にはぜひT&Yも参加できたらと思います。
- 2 小グループでのディスカッションについて。ヨーロッパ各地から、様々な背景を持っている人が集まったために、話し合い自体はとても意義のあるものであったと思います。しかし、ディスカッションのベースとした様々な証のプレゼンの中に、すでにかなり誘導的な質問等が含まれていました。もちろん話し合いを導くことは大切ですが、それを自身の求める目標に持っていくというのは、若干強引すぎではないかと感じました。



- 3 これはとてもとても個人的なことで、ここに記すべきでないのかもしれませんが、一人の参加者の感想として書きます。T&Yの全体の雰囲気として、たくみ先生がお祈りでもおっしゃったように、「頭ではなく心で理解する」というのがあるように思いました。私は性格上、また、所属教会がもともと改革派だったということもあり、聖書をもう少し学ぶことも必要なのではないかと戸惑いを感じてしまいました。

もちろん、T&Yの信仰を持った同世代の人たちが集まり、交わりを持つというのはとても素敵だと思いました。また、「頭ではなく心で」というのは信仰における最終段階において外せません。しかし、それだけで信仰するというのにやはり少し抵抗を感じてしまいます。

自分たちの信じる神様がどのようなことをされ、どのようなことを聖書でおっしゃっているのか、それらを理解することも信仰において大切なのではないかと私は思います。それは聖書のいたるところに神様の真理が織り交ぜられていると考えるからです。

T&Yのグループが聖書をないがしろにしているなどといったことを主張したいのでは全くありません。ただ、個人的にはもう少し聖書の理解を深める機会があっても良いのではないかと思います。

長々しい文章を読んでもうありがとうございます。今回の集いで、私の何倍も熱心に信仰し、奉仕している人に出会い、たくさんの刺激を受けました。そのような側面から、今回参加できて本当に良かったと思います。またお会いできるのを楽しみにして



大人ともっと話したかった！
匿名くんから

スモールグループで今まで誰かに質問できなかった事を聞けたこと、また同年代の友達が増えたことが良かったです。次回はもう少し大人の人達と話せる時間があったら嬉しいかな。集いがルーマニアで開催した事がとても良かったと思う。初参加だったが沢山のひとと知り合える良い機会となった。ユースだけでなく大人ともっと話したかった。ユースにとって料金が安くて参加しやすくて良かった。宣教活動も興味深いものだった。



Y&T スライドショー www.youtube.com/watch?v=NuX0Zu0qmNc

福音を伝えよう！ アレックス・グレゴリー

スイス日本語福音キリスト教会



初めまして、アレックスです。9月に19歳になりました！僕は日本で生まれ（浜松市出身だに！方言）14歳まで静岡県で育ち、その後、家族とともにオーストラリアに移住した、体のなかに日本人、スイス人、オーストラリア人の血が流れるサードカルチャー人です。去年の八月にオーストラリア、メルボルンでイエス様を信じて救われたものです。今年、ドイツ語の勉強と母親が育った国を知るためにスイスに来ており、日本人のお婆ちゃんの家に住まわせてもらいながら、スイス日本語福音キリスト教会でお世話になっています。

2019年の夏休み、七月下旬にヨーロッパ人旅の期間中、ルーマニアで開催された”第36回ヨーロッパ・キリスト者の集い”に参加しました。この貴重な4日間の参加を可能にしてくれたのは、スイス日本語福音キリスト教会との関わりがあったからです。

クロアチアのマカルスカからバスで23時間かけてクルージュ・ナポカに着いたのは夜の10時頃でした。会場に着いて、Teens & Youth用プログラムを眺めながら、最初のアイスブレイクの代わりに、僕自身心身のブレイクを実感していました。夕食の時間を逃してしまった悔しさはともかく、この大会で自分の印象に残ったことを二点述べたいと思います。

一つ目は何と言っても”the turning 福音を伝えよう”で、この体験は決して忘れることができないものです。「The Turning 福音を伝えよう」というのはTeens & Youthプログラム2日目の特別企画です。集まったユースの中から、2、3人づつのグループに分かれ、ホテルと川を隔てて横たわるクルージュ市の広大なセントラルパークにでかけて、迷惑になるかも知れない内容を公園でくつろぐ現地の人々に話しかけます。これも威圧感の無いよう、自己紹介に始まり、相手への質問へとつなげますが、最終的には、イエス様の偉大さを知ってもらおうのが狙いでした。

僕のグループは、川井佳代子先生、トムセン・ヨハナさんと僕でした。トップバッター、ヨハナさんは始めに相手に首をかしげさせるような質問を出し、相手の個性に合わせた個人的で

軽妙な話しぶりで、私にとっては最高なお手本となりました。一方、僕はかなり無骨で不慣れでありましたが、苦しみのおかげで、イエス様を受け入れたあとの人生の喜びと解放感の話をしました。これは確かに先方のハートに伝わる話ができたと感じます。その後、川井佳代子先生が向かったのは、7人程の青年のグループでした。このグループの中には、クリスチャンも数人いるようでしたが、はじめは、何人かの信仰を見下すような発言もあったのです。

特に印象的であったのは、ルーマニアで長年にわたって宣教されてこられた川井佳代子先生の伝道に対する真剣な姿勢でした。初めのうち、明らかに川井佳代子先生の発言に同意していなかった”彼”の様子が、対話が深まっていく中で、彼の表情に変化が見られました。彼の両眼は、対話が深まる時間の経過につれて、大きく見開かれ、川井先生の方に完全ロックイン状態となりました。そして、ただ一人、地元の教会への推薦用紙に

名を残したのが彼だったのです。そんな彼の救いを求める行為には、しばらく前の自分自身が救われる一歩手前の姿を見た思いでした。それは、今後の彼への主の働きかけを注目しないではおられない特別な午後でした。

二つ目はヨーロッパ・キリスト者の集いの規模です。初めて大会の参加者全員を目にしたときは、正直言って食事の量が足りるかどうかと心配でした。Teens & Youthだけでも30人以上という人数で、キリスト教への信念、世代の違い、そして、根底に日本と欧州への関わりを共通にする仲間達、先輩たちと交流でき



クルージュ・日本文化作品展で日本の衣装を披露するヨーロッパ・キリスト者の集いは、私が生

まれて初めて経験する最高の舞台でした。こんなに沢山の皆さんが、様々な理由で、主のもとに、主の計画に従って集まってこられたことを考えると、僕はイエス様の偉大さに今更ながら感動を禁じ得ませんでした。

心から安心して、一緒に心を合わせて、主に礼拝の時間をささげられる場を一生懸命に準備し、実行して下さったスタッフの方々と、本大会の近くで、一人一人をあたたかく見守って下さっていたイエス様に心から感謝します。



クルージュ市 セントラルパーク

「信じて一歩を踏み出す時」

浅野康

BIBLE WORSHIP STUTTGART

私は夏のキリスト者の集いには、2016年から毎年参加しているが、毎回、欧州各地や日本の信仰の友との再会や新しい出会いに励まされ、刺激を受ける。今回はティーンズ&ユース（以下T&Y）のスタッフとして奉仕する中で得た貴重な体験について、報告したい。

それは、T&Yの二日目午後のプログラム「The Turning」だった。二人組で路上伝道を行うのだが、ユニークなのは、あらかじめセリフが決まっていることである。

挨拶の後、「神はあなたを愛している。」「神はあなたのために素晴らしい計画を立てている。」の二点を手短かに伝え、「今日、死ぬとしたら、天国に絶対に行ける確信があるか？」と問うのである。そして、罪と救いに関わる聖書の節を引用して、キリストを受け入れる祈りをする、という内容である。このプログラムは、人生に回心（The Turning）をもたらすことを目的としているからこそその名称かな、と勝手に想像している。

さて、初めは「えっ？キリスト者の集いで路上伝道？」と思ったが、ルーマニアで福音を伝えることな



ど滅多にないチャンスではないか。若者たちに紛れ込んで、参加することにした。

「The Turning」にはクルージュ・ナポカ現地の若者も合流し、参加者一同は男女二人で一組となって、近くの公園にいざ突撃した。しかし、公園が近づくにつれ、不安が高まって来た。全く見ず知らずのルーマニア人に、声を掛け、いきなり神の愛を語っても頭がおかしいと思われるだけでは？しかも、英語で伝道なんて！私はドイツに来て以来、英語を話そうとする、なぜかドイツ語単語が交じった変な英語になるのである！

しかし、心配は杞憂だった。ペアを組んだルーマニア人女性と私は、与えられた45分の中で、3人の老若男女に話しかけたのだが、誰からも拒絶されなかった。それどころか、いずれの方々も私たちの語る福音を最後まで聴かれ、別れ際に日本のマンガ聖書を渡すと、特に若い方々はとても喜んでおられた。また、今後のフォローとして、幾つかの現地教会の連絡先も渡すことも出来た。

この小さな体験から、私は次の霊的真理を再確認した。もし私たちが信仰によって小さな一歩を大胆に踏み出す時、神様が必ず働いて下さる。理性や常識ではバカバカしく思えても、聖霊の導きに従うなら、神の栄光を見るのである。ヨハネ11:40

「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とわたしは言ったではありませんか。」（イエスの言葉）

主が働かれる体験

井野 葉由美

ハンブルグ日本語福音キリスト教会

ここ数年で、ユースのリーダーが成長し、自分たちでプログラムや賛美をリードする姿がとてもまぶしく、主に感謝をささげています。これからは彼らがユースを牽引していってくれるでしょう。

今年のティーンとユースは、集いの目的に記されている、特に項目3、「共通の使命であるキリストの福音の宣教協力を計る」という意味において、非常に素晴らしい一歩を刻みました。自分



自分が恵まれるだけでなく、仕える姿勢、恵みを流していく姿勢が育っています。自由時間にルーマニアの若者たちと交わり、スイカ割りも、周りで見っていた現地の人々を巻き込んで一緒に楽しみました。市内観光にも、彼らと一緒に出かけました。

若い人々は、新たな世界に対してオープンです。T&Y

の有志は、ルーマニア人のユースとともに、路傍伝道にも出かけました。2人組あるいは3人組になって、公園内でくつろいでいる人々に英語とルーマニア語で「神はあなたを愛しています」と福音を伝えるので



す。興味を持つ方には、クルージュにある教会のリストを渡し、礼拝することを勧めました。

そして、この路傍伝道で、川井佳代子先生がルーマニア語に訳してくださった信仰告白の文を用いて、その場で信仰告白に導かれた方も数名起こされたのです！彼らは「どうぞ私を用いてください」と自分を差し出すとき、主が働かれることを身をもって体験し、イエス様が遣わした70人の弟子たちが帰ってきて口々に報告したように、喜びの報告をしてくれました。

ハレルヤです。まさに、主のわざを見ました。そして、彼らの柔軟な姿勢を見習いたいと切に思わされたことでした。

先入観を悔い改めた貴重な体験

今村葉子

スイス日本語福音キリスト教会

今年もヨーロッパキリスト者の集いに参加させていただき心から主と、この大会のために大変なご尽力を下されたトランシルバニア日本語集會ならびにフランクフルト日本語福音キリスト教会の皆様に感謝を申し上げます。

この度のティーン&ユース (T&Y) はユース参加者の中からリーダーが起こされ、プログラムの企画、賛美スタッフ、などほとんどの分野で彼らの賜物が発揮されました。数年前までは、ティーンだった方々が大きく成長され、その姿に神様の豊かな愛と恵みを見させていただきました。

また、井野葉由美先生と共にご奉仕させていただいたスモールグループでは、参加者の皆さんが率直に自分の思い、受けた恵みを伝えてくださり、彼らの言葉の力に、私はとても感銘を受けました。自分の考えていることをしっかり人に伝えることは非常に大切なことで、それは相手に対する誠実さ、また尊重する姿勢が問われることでもあります。

相手に真摯に敬意を持って向かい合うことは、主である神様に対しても誠実でありたいと願うこととも一致していると思いました。たとえ他者が違う意見を持っていたとしても、恐れることなく、また相手やその場にいる人に配慮しつつ、言葉と時を選んで伝える賜物を皆さん、持っておられました。

そして、T&Yのプログラムの中で私自身がとても学ばさ

れる企画がありました。それは自由参加のプログラムで、会場から外に出て、現地の方々に福音を伝えるというものでした。会場近くの公園におられる方々に神様の愛、罪、赦し、永遠の命について、お伝えさせていただきました。私の当初の思いとはかけ離れた反応（嫌がられない。変な目で見られない。バカにされない。こちらの話に耳を傾けてくれる。）があり、主をほめたたえると同時に自分の先入観（人はそんなに簡単にイエス様を信じない。福音に耳を傾けない。という思い。）を悔い改めさせられました。

身近に福音を聴き、それを受け入れる準備ができている人がいること、また人々の心は私が思っているより頑なではなく、柔らかいこと（もちろん、神様の話しをした途端、「結構です!」とおっしゃる方もいました。）をこの度の経験で教えられました。宣教活動は、時に結果を求められているような重荷を自分に課してしまい、その重さに潰されそうになります。しかし、声をかけさせていただいた方々との交流（たとえ短くても）出会いの素晴らしさを（たとえその場で神を信じなくても）改めて主に与えていただきました。

というわけで、いつものようにT &Yの奉仕者として参加させていただきながらも、私が一番教えられ、また若い方々の姿から学ばせていただきました。T&Yの皆さんは主の賜物です。

ヨーロッパの諸教会に主と、主にある友を愛する若者がたくさんいることはなんとという恵みでしょうか。

見よ。子供たちは主の賜物。胎の実は報酬。若い時の子どもたちは 実に勇士の手にある矢のようだ。幸いなことよ、矢筒をその矢で満たしている人は。彼らは門で敵と論じるとき恥を見ることがない。詩篇127:3~5



主の臨在に溢れた集い

加藤たくみ

OVMC フィンランド

ハレルヤ！今回の集い主催教会であられるフランクフルト日本語教会、トランシルバニア日本語集会の皆様から主にあって感謝申し上げます。私は、2017年ライブチヒ、2018年エンジンバラと中高科の奉仕をさせて頂き、今年は、実行委員会のご協力を得て、ティーン&ユースというくりで、そのご奉仕をさせて頂いたことを主にあって心より感謝申し上げます。



今回は、企画の段階から、ユースの方がかかわって下さいました。一般的に人は、10歳ほど年上の人の後姿を模倣して成長していくという事を聞かれていますか？

自分より少し先を行く先輩の生き方が、素敵！この人のようにいきたいと思い、それを模倣していく・・・私たちの主イエス様は、正にその頂点に立たれている方です。イエス様は、弟子たちには生き方を見せて模範と教えを示されました。それは、高みから見下ろすのではなく、小さきもの、弱き者を慈しみ、寄り添って、私に従いなさいと模範を見せてくださる方です。そういう意味で、少し先を行くユース・リーダーの中からイエス様の香りが漂い、キリストの愛が彼らを通して、後に続く妹弟たちに流れていく、命のながれをどうしたらもたらすことができるかをここ数年模索し祈り求めてきました。今回は、そういう意味で献身的なユース・リーダーの皆さんの姿が、次に続く人たちのよきお手本となり、影響力となったと思います。「神の国は、人が地に種を蒔くようなもので、夜は寝て、朝は起き、そう

こうしているうちに、種は芽を出して育ちます。どのようにしてか、人は知りません。地は人手によらず実をならせるもので、初めに苗、次に穂、次に穂の中に実が入ります」マルコ4：26-28とあるように、若者たちの心に植えられたみ言葉の種が人手によらず成長し、イエス様のいのちが溢れる神の御国を見させて頂きました。

「受くるより、与うが幸い」という主の真理を私達は、知っている者です。そして、その真理に生きる時に主の命があふれる体験をします。今回「The Turning」という、川井宣教師ご夫妻のご協力を得て、ルーマニア人への路傍伝道の時を持ちましたが、本当に主が生きて働かれる神様であることを参加者は体験しました。

また恒例、土曜夜の「賛美と証」の時は、本当に主の前でへりくだる真摯な声が聞こえ主の臨在に溢れました。彼らは、日ごろから各教会の中で大切な主の者として愛を受け、訓練されている人たちであり、また日本語教会だけでなく、現地教会、インターナショナル教会など様々なところで学び訓練を受けている人たちです。その彼らが、その受けているものを力いっぱい主に捧げたからこそ、主がその臨在を表してくださったものと信じます。



今回 A先生のペテロが主に湖上を歩かせてくださいと願い出たメッセージを通して、私自身がチャレンジを受けました。自分自身の今ある安全で慣れ親しんだ古い革袋を捨て、より主の身元へと近づき、もっと主ご自身の心と一つになりたいという思いが与えられました。さて、一年後に私自身はどのような成長をしているのか、そして更なるユース・リーダーたちの成長と、それに続くティーンズの成長を主にあって期待し祈りつつ。

栄光在主

T&Y+ART



日本文化作品展



Text hier eingeben

TURNUL CROITORILOR トゥルヌ・クロイトリロ

ありえない恵みに応えて

森住ゆき

単立行田カペナント教会

狭いと言われがちな日本のキリスト教界においてもあまり知られず細々と歩む小さな者を、主の翼がクルージュまでお運び下さいました。多くの皆さんに作品をご観覧いただき、また集いの「分科会」では原画を用いて地域の方を教会に招く活動をご紹介でき、豊かな恵みと励ましを頂きました。主の聖名をあがめ、感謝します。

展示会場では、私が和紙独特の繊細な質感に一瞬で感動したことは、海外の人の心の中でも起こるのだ、と何度も実感しました。そして、豊かな色彩感覚の日本文化で育った私たちには当たり前でも、世界に類のない染め和紙の無限多彩なパリエーションは多くの人々にとって驚きに満ちたものだ、ということも感じました。

若い日に、思うにまかせず消去法で選んだ道の先で和紙ちぎり絵と出合いました。素晴らしい絵を描く方は世に多いのに、ろくに絵を学んでもいない私に、神さまは時



に応じて仕事をお与え下さり、今まで続けてくることができました。私が何者だということのこんなに良くして下さいのか、ありえないようなこの恵みに応えなければ！という思いが一段と強められたのが今回の集いでした。

分科会にご来会くださった皆さんに感謝します。絵と福音を一緒に届ける。カフェでビジターと教会員が自然に世間話を交わす時間を提供する。「教会に行ってみた。自分と同じよう

にフツーの人たちがいた。洗面所は清潔だった。」等々、地域の方々に教会の温かい記憶と手触りを楽しく持ち帰っていただけるよう、これからも心をこめて制作し、与えられた場で励みます。

最後に、地元クルージュにあって膨大なコーディネートのお苦を負って下さった川井先生ご夫妻とトランシルバニア日本語集いの皆さま、言い尽くせぬ励ましとサポートを頂いたフランクフルト日本語福音教会の皆さま、祈りと具体的支援をもってこの者をルーマニアに送り出して下さった所属する単立行田カペナント教会の皆さまに、深い感謝とともに神の豊かな祝福を祈ります。



集い初めての芸術作品展

トムセン千香子

スイス日本語福音キリスト教会

今年のルーマニアでの集いでは、いつもと一味違ったところがありました。それは私ごとで恐縮でもあるのですが、クリスチャン芸術家の作品展が行われたことでした。

集いでキリスト教芸術といえば今まではもっぱら音楽でした。ところが今回は視覚芸術作品展があったことです。川井先生はじめ関係者の方々のご尽力で、作品展をご準備くださり出品者の私としては大変感謝をしています。

他の多くの違ったマテリアルでの表現をしている芸術家の方々の作品を見せていただいて、一つ一つに感動していました。そして何よりもビウモカンさんの作品に出会えたことは大きな喜びと感動でした。

時間が合わずに残念ながら



ビウ・モカンさんとはお話しする機会に恵まれなかったのが心残りです。解放そして自由とは何かを身を以て経験された方の作品は本当に迫力と深みがありました。私のような平和ボケの日本で生まれ、これまた平和ボケのスイスで生活している人間にはあれだけの迫力と重みのある作品は到底作れないと思いました。

この集いをきっかけに、わ

たしはルーマニアのことがもっと知りたくなりました。

スイスに帰って来て、こちらのクリスチャンの友人にルーマニアへ行って来た事を話すと、感心して、興味を持ってくれます。色々なルーマニアでのプロジェクトを紹介



クルージュ近郊のリビウ氏のアトリエ兼自宅

してくる友人もいました。もしかしたら、これからルーマニアともっと親しい繋がりが出来るかも知れないと期待に胸を膨らませています。



作品=自分、そして解放へ

野村直彦

ベルリン・テンベルホーフ自由福音教会日本語家庭集会

今回キリスト者の集いがルーマニアの地で迎えられたことを、喜びをもって主に感謝します。

大会では多くの兄弟姉妹との再会や新しい出会いを始め、賛美と



で、私自身、文化センターの展示会に参加することで、作品を通じた自己の内面や精神性を表現する機会が与えられました。

そのことが、いまの時代において、どんなに恵まれていて、自由且つ解放的なことであるかを思い巡らすことができました。また、その時代を生きる一クリスチャンとして、主にあって、どれだけ制作に向き合えるか、改めて考えさせられるところとなりました。

祈りと聖書の学びの機会に多く与らせていただきました。

この集いでは、東欧解放30周年を記念とし、「解放された者として生きる」ことをテーマに開催されました。その中

その意味で、展示会の場でアーティストとゲストの方々との交流を持たせていただいたことは、アートによる伝道活動に対して見識を深め、新たな情熱を持って制作へのアプローチを考えさせられる素晴らしい時となりました。

この場をお借りして、奉仕を担われた兄弟姉妹に主からの多くの祝福を願い、平安のうちに集まらせてくださったことを感謝とともにお祈りします。



主の恵み溢れる集い

吉田恵利子

京都キリスト福音教会

ルーマニアのクルージュ・ナポカで行われた”解放された者として生きる～東欧解放30年に、ルーマニアで～”というテーマのもと、第36回ヨーロッパ・キリスト者の集いにこの度初めて参加させていただきました。

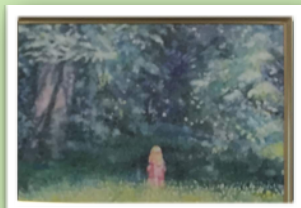
ルーマニアの川井勝太郎宣教師ご夫妻、フランクフルト日本語福音キリスト教会の矢吹博先生ご夫妻をはじめ兄弟姉妹、トランシルバニア日本語集会の方々のご準備とご奉仕に心から感謝致します。

同時に考え尽くされたプログラムに感動致しました。

諸先生方のメッセージに多くの恵みを受け、スモールグループでの分かち合いでより深く、より親しく主の恵みの素晴らしさをかみしめる時となりました。お互いに祈り合う機会も多く持たれ、親しい主にある交わりへと導かれ、多くの方々が本当に励まされ喜んでいらっしやる姿を見て、主に感謝を致しました。

また、懐かしい兄姉と再会出来ましたことも大きな喜びでした。

この度は、アーティストによる絵画の展覧会が設けられました。お声をかけて頂き、私も水彩画を出展させて頂くことになりました。川井宣教師やスタッフのミノドラ姉に感謝します。特にスイス日本語福音キリスト教会の



松林幸二郎兄には様々な面でお世話になりました。素晴らしい出展者で、ルーマニアの事情にも聴く、この展示作業準備には、松林兄の機転とご配慮、キリストにある品性と平安なくしては難しかったと感じました。

開催当日までの準備の連絡をくださったり、当日のお働きもお手伝いくださった委員会の方々、特にビショップ桂子姉に感謝を申し上げます。

また聖歌隊においても奉仕に加えていただき、心から感謝致します。主の憐れみの中、練習も楽しく意義深いものとなりました。私たちは、旅先で連絡を頂きましたが、質問にも快くお答えくださ

り、責任を持ってご指導くださいました原しのぶ姉、内村まり子師、渥美充代師に感謝致します。

「集い」の集会のプログラムに出席し、聖歌隊の練習と本番の奉仕に参加しつつ、別の絵画展覧会場へ足を運びました。時間との勝負でしたので、緊張の連続でしたが、主が憐れみを持って助けて下さる方を送っていただきました。ご奉仕くださいました先生方、兄姉、お世話頂きました方々、お知り合いになった方々、すべての方々に、そして素晴らしい主に心から感謝致します。皆様の上に主の豊かな祝福をお祈りいたします。



創作折り紙

池田喜美子

スイス日本語福音キリスト教会

スイスの古都、フリーブル市の近郊、緑に囲まれた築200年の古民家に住まれる創作折り紙作家の池田喜美子姉（83）は、東京・日本橋の陶器屋の娘として生まれました。結婚のためにスイスに渡ったのが28歳のとき、一人娘にも恵まれ、幸せな結婚生活を続けてきましたが、30年前ご主人を伝染病で亡くされ、さらに3年前に娘さんが急死され一人ぼっちとなりました。



しかし、地元の教会の姉妹や、親切な隣人らに支えられて、野花や野鳥の観察に加え、折り紙制作を続け、イエス様とともに元気に暮らしておられます。

惜しくもクルージュには来れませんでした。日本文化作品展に展示された7点の折り紙作品は、ルーマニアの人々にも深い感動を与えました。

こちらで、池田喜美子姉のお家の様子や作品が観

られます。

https://www.youtube.com/watch?v=Qv_Vy-BnH3s



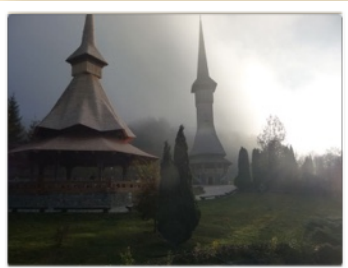
マラムレシュ??

松林幸二郎

スイス日本語福音キリスト教会

「僕の故郷・マラムレシュにとっても似ている！」見廻りに来た警察官が、雪に覆われた村々や農家の佇まいを描いた絵が彼の故郷によく似ていると、しげしげと眺めていました。昨年秋、川井宣教師の企画でクルージュ市の文化センター”カジノ宮殿”で開かれた私のリトグラフ展には、小学校のクラスから大人まで日本人の描いたスイスの風景画に、地元の人

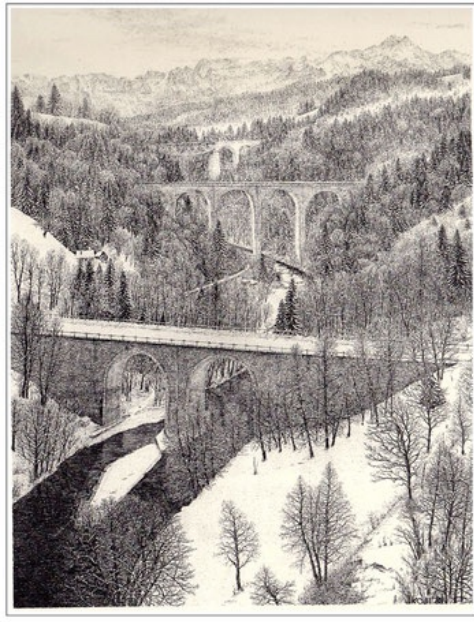
大きな興味を示しましたがそれは私の想定外でした。マラムレシュという地名を生まれて初めて警察官から聞き、大いに興味をそそられました。そのマラムレシュがキリスト者の集いの候補地になっていて、川井先生ご夫妻とともに調査の旅にでようとは夢にも思っていませんでした。そして、ウクライナに近いルーマニア北西部マラムレシュ地方の素朴な自然と文化、ひとびとに深く魅せられたのは言うまでもありません。そして、この夏、再び私のリトグラフをルーマニアの人々ばかりか、同胞の兄弟姉妹にも見て頂ける喜びは少し前までは夢想だにできなかったものでした。



朝霧の中に浮かぶブルサナ修道院

第36回ヨーロッパ・キリスト者の集いは、国境を越え遠く離れた2つの教会/集会の共催ということで、計り知れないご苦労がありがたかったと思いますが、そのご労に応えるように感動に満ちた素晴らしい大会となり、参加され深い感銘を受けた兄姉から口々に宣教の思いを新たにされたこと聞き、主に栄光を帰すことのできた歴史に残る集いであったと、実行委員会のみなさまに心から感謝しております。

また、私たちスイス教会が数年来訴えてまいりました教会の未来を背負う若い世代への経済的支援と、欧州で孤軍奮闘されている教職者への支援を、大胆なまでに実施して下さった実行委員会の勇断に心から敬意と感謝の念を伝えたいと思います。この勇断に励まされた若者が、著しい長距離にも拘わらず、あんなに大勢参加してください、私は集いのみならず欧州の日本語教会の未来に光明を見だしました。本当に、ありがとうございます。今後の集いにおいても、若者や経済的弱者、子弟を抱えるクリスチャンファミリーが参加し易い、低い参



加費の設定、あるいは可能なかぎりの経済的支援が継続されることを願ってやみません。

今回の大会は、プログラムに近年増加しつつある国際結婚した欧州人の伴侶への配慮や、日本語が読めない子弟への配慮や工夫がなされ、少数者へのキリストの愛が実践された大会でした。具体的には、英語の日程表が美しく簡潔に編集された”しおり”に織り込まれ、日本語が読めない参加者におおいに喜ばれ、これまでにない非常に優れた通訳に、ドイツ語や英語を母国語とする参加者には、これまでのように疎外感をあたえることなくインテグレートされた大会でした。

これからの集いが簡素化を目指すのは、集いを継続させるためには必要だと思いますが、どうかシンプル化の名のもとに、少数者や弱者への配慮（英語のしおりや案内、通訳）は切り捨てることのないようお願い申し上げます。

集いが36年もの長きに渡って続いてきたのは、まさしく神の奇跡で、この記録は神様の導きと祝福なしには成し遂げられなかったものです。信仰の先達の血の滲むような努力と情熱で続けられ、栄光を主に帰してきた集いを休止などせず継続させたいものです。神様は、集まることを止めないように求められておられからです。

ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。（ヘブル10：25）

集いを心から愛する者らが、力と知恵を合わせて休むことなく続けていきたいなと私は願われ、止めないで続けることが主の御心ではないかと思わされています。そのための解



クルージュ市の文化センターカジノ宮殿

決策はきっと見つかると思じます。なぜなら、主が愛されている集いだからです。

一年に一度、欧州各地に遠く離れて住むイエスを主とする愛する兄弟姉妹が一同に集まり、母国語で語られるみことばに耳を傾け、主を共に賛美する機会を36年間も与えて下さったのは神様です。例え規模が小さくなり簡素化されても、主を愛する欧州の兄弟が一堂に集まり、主を崇め、栄光を帰していくのが何よりも大切ではと信じています。

オプションツアー



ブルサナ修道院

マラムレシュ地方を訪れる旅

2019年7月28日～30日

多くの励みを受けた旅

ダーバー千晴

JB Charleston Church 牧師

集い全体のプログラムの内容はとても豊富でありました。そして、日曜日にオプションツアーで、マラムレシュのパプテスト教会の礼拝に参加できた事も嬉しかったです。そのなかで美鈴さんの証、吉田牧師ご夫妻の美しく深い歌声、若いダニエル牧師の信仰のチャレンジを教会員に促すお言葉、一緒に歌う賛美、日本人牧師のメッセージは日本人の為の祈りの課題まで含まれ、一緒に現地の人々が声を合わせ一つに結ばれた祈りを主にささげました。ルーマニアの食事までご用意くださり、兄弟姉妹と共にまじわる事が出来本当に感謝しました。オプションツアーは今までに経験の無いルーマニアを良く見せていただき感謝です。

また川井先生とアシスタントのブータさんの説明、通訳のお陰で充分理解で来ました。お二人のツアーの説明にも”良く聞いてください、そして今自分の出来ることを勇気を持ってやり遂げなさい”といわれている様に胸に響きました。多くの事を学びこれからの自分の生き方にも多くの励みを受けました。

ルーマニアならではの恵み

佐々木良子

ケルン・ボン日本語キリスト教会

恵み豊かな集いを準備して下さったフランクフルト日本語福音キリスト教会の皆さまと、ルーマニアのトラ

ンシルバニア日本語集いの方々に心より感謝いたします。また、陰にあって行き届いた準備とご奉仕をしてくださった方々にお礼申し上げます。ドイツとルーマニアという離れた地での準備は、多くのご苦労や困難があったかと思いますが、その全ての労苦を主は祝福をもって応えてくださったと信じております。

多彩なプログラムでそれぞれに恵みをいただきましたが、「ルーマニアの証言者」の方々の貴重なお証しは、開催地だからこそお聴きすることができ、「生きた信仰」を目の当たりにし、自分の信仰の小ささを見たような思いでした。

独裁共産主義体制の中、思想や信仰の自由が奪われ、投獄などのお証しを伺った上で、集いの終了後に参加したオプションツアーは貴重な体験となりました。ルーマニア北西部のマラムレシュ地方にある、パプテスト教会との合同夕礼拝では、子どもから大人まで大勢の方が参加されていて、聖霊に満たされた活気ある雰囲気圧倒されました。迫害、殉教などの大きな犠牲の歴史を通ったからこそ、篤い信仰が育まれていると思われました。

更に教会挙げて私達を心から歓迎してくださり、「鹿のように」を日本語で賛美してくださり、驚きと共に感動の涙が溢れました。日本からは3人の証し人が立てられ、日本のキリスト教の歴史も知っていただくよい機会ともなりました。異なる歴史、文化、言語をもった者同士が、主において一つとなり、主をほめたたえることができ、正にペンテコステの出来事を体験させていただきました。

このように現地教会の方々と主において密接な良い関係を作られている川井先生はじめ、ルーマニアのトランシルバニア日本語集いの方々のお働きに触れる機会が与えられて感謝しております。更にエキシメニカルな恵みが広がっていきますようにお祈りいたします。



私が夢想だにしなかったこと

ゴスリングとみよ

ケンブリッジJCF

主の御名を賛美いたします。

川井先生、素晴らしい旅を用意して下さいありがとうございました。ルーマニアのニュースはイギリスに住んでいるとよく入ってきます。どんな国かしら、貧しい国と聞いているけど、どんな人たちが住んでいるのかしら。私にとっては全くの未知の国でした。今回の集いのお陰で実際にルーマニアに行き、しかも地元の教会に行き、そのクリスチャンと一緒に礼拝をする機会が与えられた



ビルインツァバプテスト教会

のです。何と幸いなことでしょうか。私にとっては何時迄も心に残る思い出となるでしょう。

それはクルージュナボカでの集いが終わった後に、バスで更に北に進みマラムレシュ県にある一番大きな街バイアマーレ市にあるプロテスタントの教会に行ったときのことでした。地元のクリスチャンはあたかも古い友人を迎えるかのように私たちを喜んで迎え入れてくれました。一緒に御言葉を読み、主を賛美し、日曜日の午後の礼拝をしました。ルーマニア語は分からなくても、イエス様を賛美している事はわかります。彼等の歌っている讃美歌を歌いたくなりました。出てくるルーマニア語の字幕を追って辿々しく歌い出だすと、私は一人のお客様ではなく、彼等の仲間になったのです。いつの間にか彼等の喜びが私の喜びになっていました。

礼拝後は私たちのためにたくさんのもてなしを用意してくださっていました。そこでは私たちが日本語で主を賛美しました。私はイエス様が教えてくださった



歓迎会で地元料理のおもてなし

御言葉を思い出しました。

「主は私たちの神、主はただひとりである。心を尽くし、精神をつくし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」申命記6章4-9（マタイ22：37）

主を愛している人々に私はルーマニアで出会ったのです。そしてイエス様の教えてくださったもう一つの戒め「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」マタイ22：39

バイアマーレのクリスチャンは私たちが心から歓迎し、主にあつての兄弟姉妹として受け入れて下さいました。言葉も、文化も、環境も全く違う私たち、しかもただの1回の出逢いでした。でもそのような違いを超えたものがあつたように思います。それはイエス様が私達の只中におられ、導いてくださったのです。礼拝を通して、交わりを通してルーマニアのクリスチャンが私に教えて下さったことは、イエス様の愛でした。

その牧師先生が川井先生を礼拝堂の前に導き入れKatsu, Katsu, ととても親しそうに呼んでいました。礼拝も牧師先生と川井先生が取り仕切って下さいました。二人の先生の息の合ったやり取りを見ながら、川井先生のルーマニア人への愛をそして先生の長年のルーマニアでの働きの実を垣間見させて頂きました。



ダニエル牧師と川井宣教師

イエス様を愛している人々は世界のどこに住んでいても、お互いに言葉が全く通じなくても皆主にあつての兄弟姉妹であることをこの礼拝によってもう一度教えて頂いた旅でした。

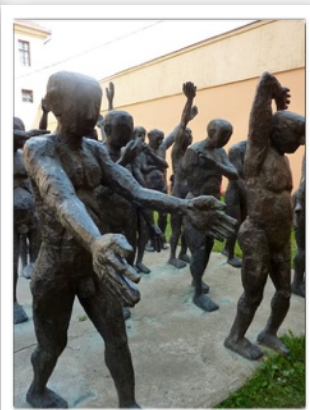
電信柱の頂上にあつた大きなコウノトリの巣、あたかもこれが我が家だと言うかのように屋根の上に留まっているコウノトリ、まるでお伽の村に行ったかのようなシュルデシティ村の教会、思い出はつきません。川井先生、楽しい旅に連れて行って下さり、本当にありがとうございました。



世界遺産の木造教会 シェルデシティー村



釘一本も使わぬ建築：プルサナ修道院



迫害博物館メモリアル

もっと大きな神様の視点を

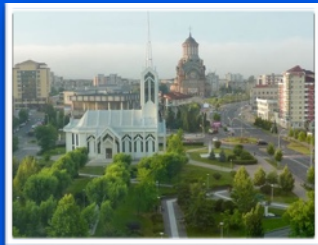
馬場晶子

ロンドンJCF

毎年恒例の集い参加も20回となりました。その変遷を身をもって経験し、今や生き証人となりつつあります。

今”集い”の今後のあり方が考えられています。今年ルーマニアで開催された集いは、海外に住む信仰者としての生き方に新しい示唆が与えられたように思いました。

今回の”集い”は当初の私の予想をはるかに超えるものでした。これは実行委員の方々のご尽力はもとより地元ルーマニアで30年近く宣教活動を繰り広げてこられた川井先生ご夫妻とそのチームによるところが大きいでしょう。



マラムレシュの首都、バイアマーレ市

それが顕著だったのは”集い”後のオプションルツアーでした。美しいマラムレシュ地方の旅の始まりはバイアマー市の教会での夕拝でした。ルーマニアの教会の方々

の暖かい歓迎を受けて日ルーマニア合同礼拝でした。日本側の賛美と証、説教、報告は全て川井先生による見事な通訳を通してなされ、集まった多くのルーマニアの方々

は熱心に、暖かい眼差しを持って聞いておられました。わたしたちを歓迎する会衆による日本語賛美は川井先生には知らされていなかったサプライズでした。礼拝の後は教会のホールで用意してくださった地元料理の数々に舌鼓を打ちながら、皆さんと談笑し、共に賛美しました。この牧師さんは川井先生が育てた方でした。川井先生が30年の宣教活動を通してルーマニアで30以上の教会を建て上げ、人材を育てて来られた成果が今豊かな実を結んでいることをこのツアーが物語っていました。

これも革命後荒廃した国に遣わされ、宣教師としてその地に根を



パストラバリエでマス料理を頂く

下ろして苦勞しながら福音宣教に従事されたからこそ今があるのだと思われました。普段ニュースレターを通してしか知らなかった川井先生の宣教の実態を、今回この目でしっかりと確認できたことは、集い参加だけでは気づけなかったであろう大きな収穫でした。

ツアー参加者の中で主人を始め体調を崩した方達がおられましたが、近くに住むクリスチャンの兄弟たちが、川井先生の要請に応じて迅速な対応をとってくださいました。これも地元の人たちとの信頼関係が築き上げられているからこそなせる業でした。川井先生のサービス精神が随所に見られる楽しい、温かいツアーでした。



ミノドラ姉

またツアーの日本語ガイドとしてお世話してくださった川井先生の愛弟子のミノちゃんことミノドラさん。毎回集いではお顔を見ていましたが、こんなに日本語がお上手だとは驚きでした。宣教活動の一環として開いているサクラカフェも地元で良き証の場所となっていました。

今回宣教師としての川井先生の姿を拝見できたことは、海外に住む私たちクリスチャンにとってのあり方も考えさせられました。民族の多様化が進む中で、(私の家族内でも多様化が進んでいます。)単に同一民族向けの宣教でなく、地元民の中で暮らす者として証を立てつつ、地元の人々との友好関係と地元教会との関わりも大切にする必要があるとも思われました。

そうすることによって、今回”集い”がルーマニアの人々にも影響を及ぼしたであろうように、海外に暮らす日本人クリスチャンが反対にキリスト教国の人々に影響を与えていくことになるのではないのでしょうか。

もっと大きな神様の視点をもち、海外に暮らす同胞のみならず、神様に創造されたわたしたち人類に、周囲の人々に福音を通して影響をを与えられるクリスチャンになりたいと思われた今回の”集い”でした。これこそ十字架により開放された者としての使命だと思います。

引き続きルーマニアでの川井先生ご夫妻のお働きのために、また、ルーマニアから日本へ宣教師を派遣するというヴィジョンに対しても共に祈っていきたいと思いました。

記録ビデオ→[マラムレシュの旅](#)

オヤジのダジャレ

シゲツ市の迫害記念館から、「陽気な墓」のあるサブンツァ村へはウクライナ国境の近くの道を守る。北の方角、ウクライナ方向を見上げると黒い雨雲が急速に広がっている。バスガイドを務める川井先生に「なぜウクライナとか知っていますか？」川井先生「??」「北の方、ウクライナを見てください。暗いでしょ！」川井先生「!?!」「それで、ウー、暗いな、ウクライナというんじゃないですか？」川井先生「うーくー」



陽気な墓 MerryCemeteryサブンツァ村

